

平成30年度
(平成29年度対象)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項に基づく
教育委員会の点検・評価

印西市教育委員会

目 次

1 点検評価について	1 頁
(1) 趣旨	2 頁
(2) 点検評価の対象	2 頁
(3) 点検評価の方法	2 頁
(4) 点検評価の構成	3 頁
2 印西市の教育施策	4 頁
(1) 教育施策の基調	5 頁
(2) 主な施策	6 頁
(3) 教育施策の体系	8 頁
3 点検評価結果	9 頁
(1) 点検評価結果目次	10 頁
4 評価のまとめ	31 頁
(1) 評価内訳	32 頁
(2) 施策別評価	34 頁
(3) 学識経験者の知見の活用	34 頁

1 点検評価について

(1) 趣旨

市教育委員会では、平成17年度から教育施策の基調を「健やかな心と体を育む教育」と定め、この基調による目標のもと、事業の実施に努めているところですが、平成19年6月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、「教育委員会は、毎年その教育行政事務の管理執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表すること」となりました。昨年度は、平成28年度「印西市の教育施策」について「点検・評価」を実施し、各分野の学識経験者の皆様よりご意見をいただき、報告書を取りまとめ、公表しました。この「内部点検評価」の作業及びいただいたご意見を参考にすることで、平成29年度中に施策の進捗状況を再確認し、効果的な施策の展開に寄与することができたと考えております。

今年度も平成29年度の「印西市の教育施策」について「点検・評価」を実施し、報告書に取りまとめました。これを公表し、市民のみなさまからご意見をいただき、よりよい教育の実現に向けて、取り組みを進めてまいりたいと考えています。

(2) 点検評価の対象

点検評価の対象は、平成29年度版印西市の教育施策（以下「教育施策」という。）における事業の実施内容について、点検を行い、印西市教育委員会としての自己評価を報告書としてまとめました。

(3) 点検評価の方法

点検評価の方法は、教育施策中の「主な事業」毎に、平成29年度に実施した実施内容及び実績を明らかにするとともに、それに基づいた施策の内部評価を客観的に行い、課題を分析し、今後の事業に活かすものとします。なお、法律に明記されている「学識経験を有する者の知見の活用」については、学校教育、生涯学習、スポーツ振興それぞれの分野の学識経験者の皆様（元市学校長、元市社会教育指導員、市体育協会役員）に、御意見をいただきました。

（点検評価の流れ）

○事業点検…主な事業毎の事業内容点検（点検者：担当課長）



○施策評価…主な事業評価（評価者：教育長、部長。学識経験者知見活用）



○総合評価…教育委員会会議における最終評価（評価者：教育委員）

(4) 点検評価結果の構成

教育施策中の「主な施策」毎の「主な事業」における「事業内容」を平成29年度に実施すべき事業目標と位置付け、この実施状況について点検を行い、「主な事業」毎に内部評価しています。

表の項目について

○事業……「主な事業」毎に掲げている事業です。

○事業内容（平成29年度目標）……事業の具体的な内容です。教育施策は、当該年度の事業計画書であり、教育施策中の主な事業における「事業内容」は、実施すべき具体的な事業内容であることから、平成29年度目標と位置付けています。

○平成29年度実績……平成29年度目標に対し、実際に実施した事業の内容、回数などを具体的に記載しています。

○施策評価……「主な事業」毎に、事業の進捗を点検し、印西市教育委員会が内部評価しました。評価指標は「S, A, B, C」の四段階評価とし、以下の内容を基準としています。

S 事業の目標が達成され、計画以上の施策の進捗が認められる。

A 事業の目標が概ね達成され、施策の進捗が認められる。

B 目標の一部が達成できなかった。

C 未達成事業が多く、施策の進捗がほとんど認められない。

○評価理由……「S, A, B, C」の評価を行った理由を示しています。

○今後の課題……重点施策の実現に向けて、今後の方向性を示しています。

《参考》地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

[昭和31年6月30日 法律第162号]

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 印西市の教育施策

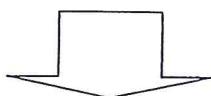
印西市基本構想

将来都市像

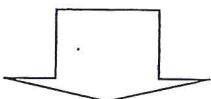
ひと まち 自然 笑顔が輝く いんざい

将来の都市像実現のため6つの柱

- 1 恵まれた自然の中でやすらぎを持って生活できるまちをつくる《生活環境》
- 2 やさしさを持っていきいきと暮らせるまちをつくる《健康福祉》
- 3 地域の持つ可能性を活かした魅力あるまちをつくる《産業振興》
- 4 健やかな心と体を育み未来を拓くまちをつくる《教育・文化》
- 5 快適で暮らしやすい都市機能の充実した美しいまちをつくる《都市基盤》
- 6 市民と行政がともに歩み健全で自立したまちをつくる《住民自治・協働・行財政》



印西市教育大綱



教育施策の基調

【健やかな心と体を育む教育】

主な施策

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む [学校教育]

- 1 学ぶ力、豊かな心、健やかな体を育む教育の推進
- 2 安全で安心できる教育環境づくり

II. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する

(生涯学習・生涯スポーツ)

- 1 年齢にとらわれずにいきいきと暮らすための生涯学習活動
- 2 地域で子どもたちを守り育てる環境づくり
- 3 市民が参加しやすいスポーツ環境の整備と推進体制の充実

III. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る [文化]

- 1 創造性を育む文化・芸術活動の推進・継承
- 2 文化財の保護・活用
- 3 市史編さん事業の推進

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

これからの教育には、変化の激しい社会を担う子どもたちに、「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の3本を柱とする「生きる力」をつけることが求められている。

その中でも本市は、特に健やかな心と体を育む教育を基調とし、道徳教育の充実や豊かな体験活動、情報教育やICT活用の推進、芸術文化体験事業や読書活動の推進、教科体育の充実、運動部活動の推進や小学校駅伝競走大会、食育や生活習慣づくりなどを通して健やかな心と体の育成に向けて取り組んでいく。

さらに、教職員の専門性と指導力の向上を図り、子どもの学ぶ意欲の向上に努め、生涯学習の基礎づくりをめざす。

II. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する〔生涯学習・生涯スポーツ〕

生きがいを持ち、心豊かで充実した生活を送れるよう、生涯にわたって学習できることが重要となっている。さらに、国際化・情報化等の進展に伴う、価値観の多様化と社会の急速な変化に対応するため、情報を見極め、個人の適性に応じた知識や技術を習得し、活用していく必要性が高まっている。

こうした市民の多様な学習ニーズと現代的課題に適切に対応するため、多様な生涯学習情報と公民館・図書館等の学習活動の場を提供することにより、学習機会の拡充を図り、「いつでも・どこでも・だれでも」生涯にわたってさまざまな分野で自ら学ぶことのできる学習環境をつくり、市民の生涯学習活動を推進する。

また、公民館や図書館等の生涯学習・社会教育施設の維持・管理や指導者の確保、高等教育機関等との連携・協力を図り、生涯学習推進体制を充実する。

さらに、親と子の絆を強めて、子どもの生きる力の基礎となる家庭教育を充実させるとともに、子ども達が安全・安心で健やかに成長できるように、地域で行われる青少年健全育成活動を推進し、地域で活動する市民団体を支援する。

スポーツ・レクリエーション活動は、市民の「こころ」と「からだ」の健全な発展をうながし、明るく豊かで活力に満ちた生きがいある社会の形成に寄与するもの

である。しかし、社会背景の変化に伴い、運動不足や体力の低下が問題となってきている。

このような状況の中で、当市においても高齢化の進展、余暇時間の増大、そしてライフスタイルの個性化・多様化などにより、スポーツに対する関心が高まり、気軽にスポーツ・レクリエーション活動へ参加できる機会の拡充が強く求められている。

のことから、市民が心身ともにたくましく健康で明るい生活が送れるよう、生涯にわたってそれぞれの体力や年齢に応じたスポーツ・レクリエーション活動に親しめる機会の拡充を一層推進する。

III. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る〔文化〕

私たちを取り巻く社会環境の大きな変化に伴い、多様なライフスタイルが追求され、暮らしに生きがいやゆとり、潤いをもたらす文化的価値が重視されてきている。

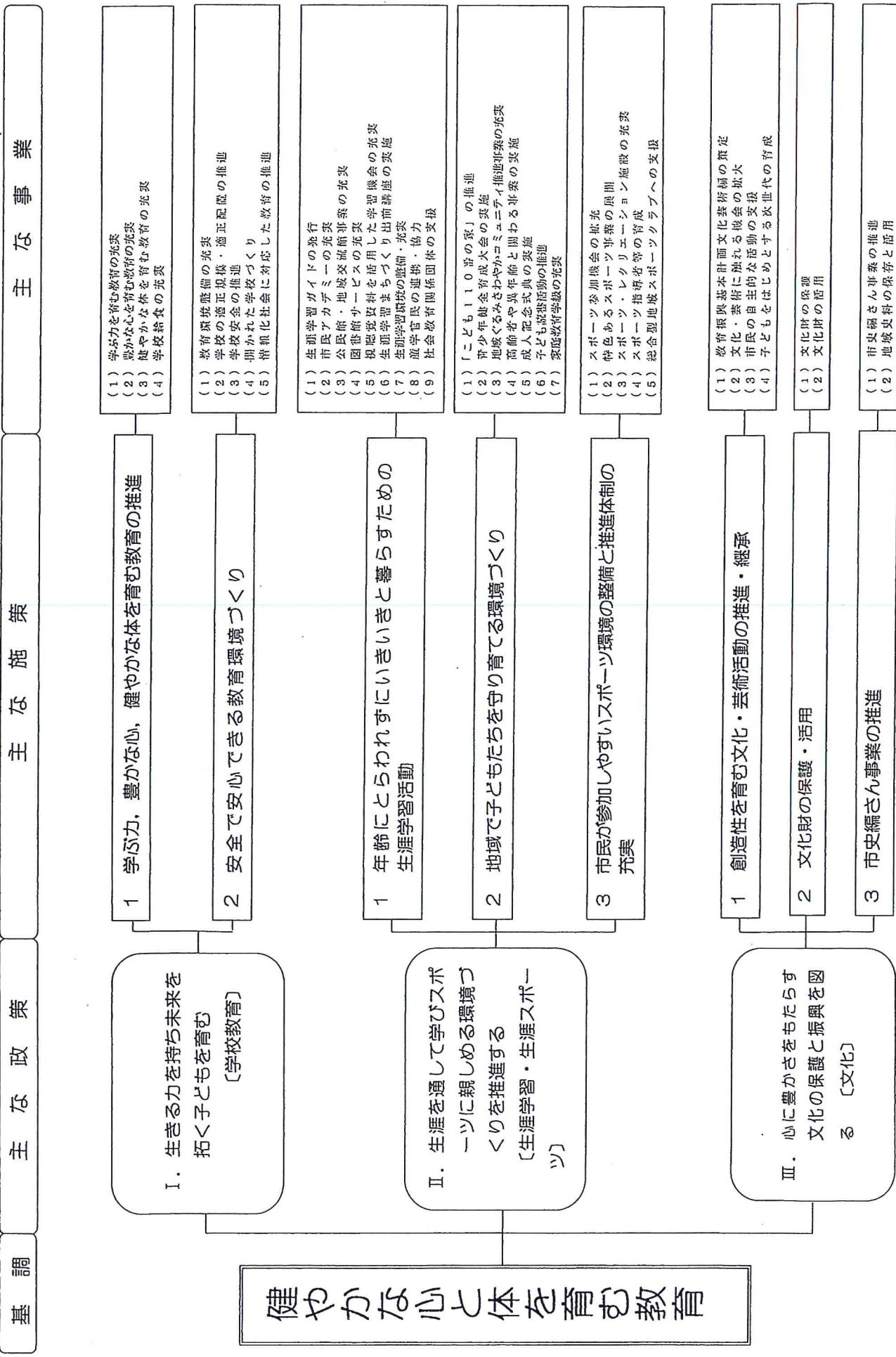
こうした中で、市民一人一人がゆとりある充実した生活をおくるためには、文化に親しみ、自ら文化創造の担い手となることを基本として、魅力に富んだ地域文化の形成が求められている。

また、文化は古くからその地域の自然・歴史・伝統と共に存しながら、そこに住む人々の長い生活の営みによって育まれ、独自のものを形成してきた。ところが、昨今の急激な都市化の進展に伴い、社会構造や生活環境が大きく変貌する中で、伝承してきた生活技術や習慣の多くが忘れ去られようとしている。

のことから、市民の自主的で創造的な文化芸術活動の推進や市民の文化芸術に対する関心を高めるため学習機会や学習情報の提供などを積極的に行い、ゆとりと潤いのある文化芸術活動の盛んなまちづくりを展開する。

さらに、市民の心のよりどころとなる文化遺産を保護し、次の世代に継承するため、積極的に調査研究するとともに、その保存・活用に努め、伝統文化の振興を図る。

印西市の教育施策の体系



3 点検評価結果

点検評価結果 目 次

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

1 学ぶ力、豊かな心、健やかな体を育む教育の推進

(1) 学ぶ力を育む教育の充実	11頁
(2) 豊かな心を育む教育の充実	14頁
(3) 健やかな体を育む教育の充実	15頁
(4) 学校給食の充実	16頁

2 安全で安心できる教育環境づくり

(1) 教育環境整備の充実	17頁
(2) 学校の適正規模・適正配置の推進	18頁
(3) 学校安全の推進	18頁
(4) 開かれた学校づくり	19頁
(5) 情報化社会に対応した教育の推進	19頁

II. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する

〔生涯学習・生涯スポーツ〕

1 年齢にとらわれずにいきいきと暮らすための生涯学習活動

(1) 生涯学習ガイドの発行	21頁
(2) 市民アカデミーの充実	21頁
(3) 公民館・地域交流館事業の充実	21頁
(4) 図書館サービスの充実	22頁
(5) 視聴覚資料を活用した学習機会の充実	22頁
(6) 生涯学習まちづくり出前講座の実施	22頁
(7) 生涯学習環境の整備・充実	22頁
(8) 産学官民の連携・協力	23頁
(9) 社会教育関係団体の支援	23頁

2 地域で子どもたちを守り育てる環境づくり

(1) 「こども110番の家」の推進	23頁
(2) 青少年健全育成大会の実施	24頁
(3) 地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実	24頁
(4) 高齢者や異年齢と関わる事業の実施	24頁
(5) 成人記念式典の実施	24頁
(6) 子ども読書活動の推進	25頁
(7) 家庭教育学級の充実	25頁

3 市民が参加しやすいスポーツ環境の整備と推進体制の充実

(1) スポーツ参加機会の拡充	25頁
(2) 特色あるスポーツ事業の展開	26頁
(3) スポーツ・レクリエーション施設の充実	26頁
(4) スポーツ指導者等の育成	27頁
(5) 総合型地域スポーツクラブへの支援	27頁

III. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る〔文化〕

1 創造性を育む文化・芸術活動の推進・継承

(1) 教育振興基本計画文化芸術編の策定	28頁
(2) 文化・芸術に触れる機会の拡大	28頁
(3) 市民の自主的な活動の支援	28頁
(4) 子どもをはじめとする次世代の育成	28頁

2 文化財の保護・活用

(1) 文化財の保護	29頁
(2) 文化財の活用	29頁

3 市史編さん事業の推進

(1) 市史編さん事業の推進	30頁
(2) 地域史料の保存と活用	30頁

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

1 学ぶ力、豊かな心、健やかな体を育む教育の推進

(1) 学ぶ力を育む教育の充実

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○学級経営相談支援の実施 ○漢字級別認定テスト「印西漢字マスター」の実施 ○計算力認定テスト「Inzai Legend of Math」の実施 ○社会科ワークテストの活用 ○生徒指導の機能を重視した「わかる授業」展開の推進 ○基礎学力向上のための取組の推進 ○個に応じた指導方法の工夫・改善及び指導体制の充実 ○ICTを活用した授業づくりの推進 ○学力向上プロジェクトの実施 ○学校支援ボランティア・学生ボランティアの活用 (順天堂大学、秀明大学、日本医科大学看護専門学校との連携) ○教職インターンシップ「あすなろ先生」の派遣 (秀明大学との連携) ○デジタル教材の効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○要請に応じて学校を訪問し、基本的な授業技術の向上や適切な学級事務の進め方等について助言・支援した。 ○3回実施し、各回とも約2,900名の児童生徒が受検した。 また、5名の運営委員により練習問題の改訂や中学校版の検討を行った。 ○3回実施し、各回とも約2,800名の児童生徒が受検した。 また、5名の運営委員により実施手順や問題を改訂した。 ○社会科副読本「わたしたちの印西市（小学3・4年生版）」に準拠したワークテストを編集し、活用を推奨した。 ○要請に応じて学校を訪問し、授業研修会等で助言・支援した。 ○各校でドリルタイム設定等の工夫をし、計算・漢字等の基礎学力の向上を図った。 ○各種研修会において教職員の資質向上を図るとともに、学習指導員等の配置やボランティアの活用を行った。 ○既存の電子黒板やPC、書画カメラやタブレットPC等を利用した授業を実施した。 ○全教職員が学習指導案を作成した授業研究を行い、指導力の向上を図った。また、要請に応じて指導主事を派遣し、指導・助言を行った。 ○約750名のボランティアの協力のもと、学習支援の充実及び環境整備の推進を図った。 ○36名の学生を9小学校及び3中学校に派遣し、学生の教職インターンシップを支援した。 ○7小中学校のPC教室の端末をタブレット型に入れ替え、授業での話し合い活動、調べ学習及び映像資料作成等に活用した。
④ 教職員研修（主任・層別等）の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○教頭研修会の開催 ○教務主任研修会の開催 ○学年主任等研修会の開催 ○生徒指導担当者研修会の開催 ○情報教育研修会の開催 ○国際理解教育担当者研修会の開催 ○学校図書館担当者研修会の開催 ○体育主任研修会の開催 ○安全主任研修会の開催 ○養護教諭研修会の開催 ○特別支援教育コーディネーター研修会の開催 ○教育相談研修会の開催 ○道徳教育授業実践研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校的教頭を対象に、2回の研修会を実施した。 ○小中学校的教務主任を対象に、7回の研修会を実施した。 ○計画及び実施なし ○小中学校的生徒指導担当者を対象に、3回の研修会を実施した。 ○小中学校的情報教育担当者を対象に、1回の研修会を実施した。 ○小中学校的国際理解教育担当者を対象に、2回の研修会を実施した。 ○小中学校的学校図書館担当者を対象に、2回の研修会を実施した。 ○小学校体育主任を対象に2回、中学校保健体育科主任を対象に1回の研修会を実施した。 ○小中学校的安全主任を対象に、1回の研修会を実施した。 ○小中学校的養護教諭を対象に、5回の研修会を実施した。 ○小中学校的特別支援教育コーディネーターを対象に、1回の研修会を実施した。 ○小中学校的希望する教職員を対象に、6回の研修会を実施した。 ○小中学校から推薦された教職員を対象に、3回の研修会を実施した。

	<ul style="list-style-type: none"> ○若年層研修会の開催 ○全教科教材研究等に関する研修会の開催 ○学習指導法等に関する研修会の開催 ○実技研修会の開催 ○ICT実技研修会、活用研修会の開催 ○特別支援教育研修会の開催 ○人権教育研修会の開催 ○授業相談支援の実施 ○各種出前授業の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校の希望する教職員を対象に、1回の研修会を実施した。 ○小中学校の希望する教職員を対象に、9回（6教科及び道徳、外国語活動）の研修会を実施した。 ○小中学校の希望する教職員を対象に、教育センターが主催する各種研修会で実施した。 ○小中学校の希望する教職員を対象に、3回の研修会（理科、体育、ICT）を実施した。 ○小中学校の教職員を対象に、5回の研修会（情報教育、ICT活用等）を層別に実施した。 ○小中学校の特別支援教育担当者及び希望する教職員を対象に3回の研修会を実施した。また、学習指導員及び介助員等を対象に、2回の研修会を実施した。 ○小中学校の人権教育担当者を対象に、1回の研修会を実施した。 ○小中学校の要請に応じて、指導主事等が授業づくり、学級経営、校内研究及び研究発表等に関する指導・助言を行った。 ○小中学校の要請に応じて、児童生徒・保護者を対象に、指導主事等によるSNSネットリテラシー出前授業を4回実施した。
(エ) 校内研修の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研修での指導・助言 ○評価についての研修の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○各小中学校に指導主事等を派遣し、指導・助言を行った。 ○指導主事を派遣し、思考力・判断力・表現力の育成を中心とした指導・助言を行った。
(オ) 教育課題の調査・研究・開発	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力調査と活用 ○教育に関する調査・研究・開発 ○研究校等、特色ある教育活動への支援 ○教材の研究開発 ○教科指導法の指導・支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校の要請に応じて、指導主事等が評価規準や評価方法についての指導・助言を行った。 ○全国学力・学習状況調査及び千葉県標準学力検査の結果について調査し、考察を加えて、各校に指導法改善の周知を図った。 ○外国語活動、道徳教育、オリンピック・パラリンピック教育など、特色ある教育活動を行う7小学校及び3中学校への支援を行った。 ○教育センターにおいて、社会科副読本や漢字・計算コンテンツ、SNS等対応ネットリテラシー教材等を改訂した。 ○小中学校の要請に応じて、指導主事等が教科指導に関する指導・助言を行った。
(カ) 教育研究団体支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員による自主講座の支援 ○市教育研究会の運営支援 ○市教育研究会への指導・助言 ○各研究団体の活動支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○要請に応じて、指導主事等を研修会に派遣し、指導・助言を行った。 ○要請に応じて、指導主事等を派遣し、運営支援を行った。 ○要請に応じて、指導主事等を研修会に派遣し、指導・助言を行った。 ○要請に応じて、指導主事等を派遣し、活動支援を行った。
② 幼児教育の充実		
(フ) 情報提供と学習機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児教育に関する様々な情報の提供 ○園外研修等への積極的な参加 ○組織的・計画的な園内研修の推進 ○保護者会や地域懇談会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園、保育園、小中高等学校の教諭による就学前ネットワーク部会を開催し、情報共有・連携を図った。保護者会や園だより等を通じて、園児の様子や幼児教育に係る情報を積極的に提供した。 ○各幼稚園に対し、各種研修会への参加を奨励し、複数の職員が参加した。 ○幼児教育充実のために、運動遊びや特別支援教育に係る園内研修会を実施した。 ○保護者会、個人面談、保育参観等を通じて、保護者への情報提供に努めた。また、地域の方と園児との交流の機会を設けた。

(イ) 幼稚園・小学校・中学校の連携	<ul style="list-style-type: none"> ○職場体験を通じての交流 ○諸行事を通じての交流 ○情報交換会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校職場見学や中学校職場体験学習を通して交流した。 ○合唱会や生活科学習、家庭科実習などを通して交換した。 ○生徒指導会議、特別支援教育研修会などを通じ、情報交換を行った。
(ウ) 個に応じた教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども発達センター、健康増進課等との連携 ○介助や指導補助のための非常勤職員の配置 ○コスマスファイル（相談支援ファイル）を活用した早期就学相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○園を訪問し、特別な支援を要する園児に対する支援策を共有するとともに、指導・助言を行った。 ○学校や児童生徒の実態に応じて補助教員や支援員などを配置し、個に応じたきめ細やかな指導を行った。 ○6月に「就学相談会」を実施した。また、年間を通して個別の就学相談を実施した。
③読書活動の推進		
(ア) 学校図書館の資料の整備充実	<ul style="list-style-type: none"> ○学校間貸し出しの充実 ○図書システムの活用による学校間貸し出しの推進 ○計画的な図書資料の選定と購入 ○蔵書点検の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館担当職員を核として、学校図書館司書が構成しながら充実に努めた。 ○図書システムを活用し、学校間貸し出しを行った。 ○文部科学省が示す学校図書館図書標準に基づき、児童生徒への指導に適した蔵書の選定及び購入を行った。 ○3小中学校で実施した。
(イ) 市立図書館との連携事業の開催	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館担当者会議、学校図書館司書連絡会での情報交換 ○市立図書館からの団体貸し出しの利用促進 ○スクール便貸し出し事業 ○図書館司書研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館担当者を対象とした研修会を2回；学校図書館司書を対象とした連絡会を1回実施した。 ○市立図書館から学校施設に対し、3、105冊の図書の貸出しを行った。 ○市立図書館からスクール便として、小学校19校、中学校6校に対して資料のセット貸出しを行った。 ○市立図書館司書及び学校図書館担当者、学校図書館司書を対象に、1回の研修会を実施した。
(ウ) 学校図書館の環境整備と機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○司書の適切な配置 ○学校図書館司書連絡会の定期的な開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○全小中学校に学校図書館司書11名を配置した。 ○学校図書館司書を対象に、11回の連絡会を実施した。
④国際理解教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語指導助手（ALT）及び日本人英語教育コーディネーターの活用 ○日本語指導員の派遣 ○小学校高学年における外国語活動の充実 ○小学校低・中学年における国際理解教育推進 ○小中学生対象の英語研修会（イングリッシュ・トレセン）の実施 ○国際交流事業への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTは各中学校区に9名、6小学校に2名を、英語教育コーディネーターは4小学校に3名を配置し、コミュニケーション能力の育成及び小学校英語の教科化に向けた実践力の向上を図った。 ○外国人生徒の学校生活支援のため、日本語指導員1名を1中学校に派遣した。 ○全ての小学校5・6年生において、外国語活動を実施した。 ○低学年においては年間8時間程度、中学年においては年間17時間程度、ALTを活用した授業を実施した。 ○ALTを活用し、夏季休業中に小学校5・6年生対象で2日、12月の土曜日に中学校1・2年生対象で1日の研修会を実施した。 ○3月に6泊7日の日程で、市内在住中学生20名をシドニーに派遣し、現地校での交流やホームステイを通して、オーストラリアの歴史や文化に触れた。
⑤特別支援教育の推進		
(ア) 特別支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○個別指導計画、教育支援計画の作成と活用 ○介助員の配置 ○指導員の配置 ○校内支援体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の発達段階、能力及び特性等に即した計画を作成し、具体的な指導・支援に活用した。 ○14小学校及び5中学校に32名の介助員を配置した。 ○18小学校及び7中学校に42名の学習指導員を配置した。 ○児童生徒の教育的ニーズに応じて、支援学級・通常学級間の交流学習を行うとともに、校内では組織的対応を図った。

	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭、医療、関係機関等との連携 ○適応指導教室との連携 ○研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒個々の教育的ニーズに合わせて対応できるよう、必要に応じて指導・支援の方法に関する情報共有及び連絡調整を図った。 ○児童生徒個々の教育的ニーズに合わせて対応できるよう、必要に応じて指導・支援の方法に関する情報共有及び連絡調整を図った。 ○小中学校の特別支援教育担当者及び希望する教職員を対象に、3回の研修会を実施した。また、学習指導員及び介助員等を対象に、2回の研修会を実施した。
(イ) 就学指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○就学指導委員会の開催 ○早期就学相談、継続相談の実施 ○関係課（障がい福祉課・健康増進課・保育課・子育て支援課・指導課）担当者会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○10名の委員により、3回の委員会を実施した。 ○6月に就学相談会を実施するとともに、年間を通して個別の就学相談を実施した。 ○7回の5課担当者会議及び2回のネットワーク部会を実施し、支援体制の整備を図った。
⑥キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校職場体験学習（印西市生き生き体験）の実施と小学校職場見学学習の支援 ○地域の企業、職業人との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○市内148事業所の協力のもと、全中学校で職場体験を、全小学校で職場見学を実施した。 ○小中学校において、職場体験、職場見学や講話等を実施した。

施策評価	A
評価理由	概ね計画通りに事業を行うことができた。
今後の課題	各種研修会の内容及び実施回数の見直し。

(2) 豊かな心を育む教育の充実

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29実績
①道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育全体計画の改善と校内推進体制の充実 ○道徳教育授業実践研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○各校の道徳教育推進教師を中心に計画の見直しや指導の実践を図った。 ○小中学校から推薦された教職員を対象に、3回の研修会を実施した。
②人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○人権教育全体計画の改善と心を育てる教育の充実 ○人権教育研修の実施 ○いじめに関するアンケートの定期的な実施 ○家庭・地域や関係機関との連携による人権意識の啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ○国や県の動向を踏まえた各校の取組について指導・助言を行った。 ○全小中学校で人権教育に関する校内研修を実施するとともに教育センターの夏季研修会で人権教育研修会を実施した。 ○全小中学校で定期的なアンケート及び事後の教育相談を実施し、いじめの未然防止、早期発見、事態解決を図った。 ○学校からの便り及び学校ホームページ等を通じて、学校の取組みについて情報発信した。
③芸術文化体験事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○さわやかハートフルコンサートの開催 ○小学校芸術鑑賞教室の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校5年生及び中学校代表生徒を対象に、日頃の音楽練習の成果を発表し合う場としてコンサートを開催した。 ○小学校6年生全員を対象に、古典芸能（狂言・落語）の鑑賞教室を開催した。
④体験活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○奉仕等体験活動の実施 ○自然科学体験学習の実施 ○みどりの少年団活動の推進 ○自然観察会の実施 ○親子体験学習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○各校では年間計画に基づき、学校や地域の美化活動を実施した。 ○各校では年間計画に基づき、児童生徒や地域の実態に応じた自然体験学習を実施した。 ○全小中学校で緑化活動に取り組んだ。千葉県みどりの少年団交流集会には2小学校が参加した。 ○児童生徒・保護者を対象に、里山観察会（2回）及び星空観察会を実施し、計74名が参加した。 ○児童生徒・保護者を対象に、産学官連携科学講座、わら細工体験教室及び科学実験講座を実施し、計118名が参加した。

⑤郷土愛を育む教育の推進	○各小・中学校に設置している「歴史資料室」の内容の充実 ○地域の伝統芸能の体験 ○社会科副読本の活用による地域の先人の業績の学習 ○地域教材の開発 ○郷土の特色を生かした授業や行事を教育センターホームページから発信	○掲示物及び展示物等の見直しや更新を行い、内容の充実に努めた。 ○各校では年間計画に基づき、太鼓や舞踊等の伝統芸能を体験した。 ○地域の発展に尽くした大菅喜一、吉植庄一郎・庄亮について先人の業績を紹介する学習資料として取り上げた。 ○単元「郷土を開く」において、手賀沼の干拓及びその後の草深の開拓を学習教材として取り上げた。 ○教育センターホームページから、他校の実践等の発信に努めた。
⑥適応指導教室事業の推進	○適応指導教室の充実 ○連絡会の実施	○中学生21名、小学生5名の計26名が通室し、改善が見られた児童生徒は19名であった。 ○月1回の保護者会「あったまる会」を設け、毎回1~3名程度の保護者が参加し、情報交換を図った。
⑦教育相談の充実	○面接相談・電話相談の充実 ○不登校児童生徒等の相談の充実 ○関係機関との連携 ○訪問指導の充実 ○スクールカウンセラー等の活用	○面接件数は110件、電話相談件数46件のうち、子ども相談室の利用は3件であった。 ○定期的にケース会議を実施したり、訪問相談担当教員やスクールソーシャルワーカー等との連携を図ったりした。 ○学校だけではなく、市の相談機関との連携を図った。 ○訪問相談担当教員やスクールソーシャルワーカーを活用し、相談の充実を図った。 ○9中学校、3小学校に配置されたスクールカウンセラーが、児童生徒及び保護者の相談に関わった。
⑧学校問題対策の指導・支援	○学校問題対策指導員による学校への指導・支援	○2名の学校問題対策指導員が、学校の諸問題に対して、広い視野から総合的見地に立って指導・助言を行った。

施策評価	A
評価理由	概ね計画どおりに実施できた。
今後の課題	不登校児童生徒の学校復帰へ向け、より一層の支援・相談体制を整える。

(3) 健やかな体を育む教育の充実

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①学校体育の充実	○体育主任会議、体育科研修会の開催 ○小学校駅伝競走大会の開催 ○中学校武道学習における外部指導者の活用 ○授業や大会等における順天堂大学との連携強化 ○運動に親しむ能力を育成するための授業改善指導	○会議を2回（小中学校各1回ずつ）、実技研修会を1回実施した。 ○全小学校の男子35チーム、女子35チームの参加により実施した。 ○県事業の特別非常勤講師配置事業により、5中学校に3名の外部人材を配置し、活用した。 ○小学校駅伝競走大会にて、伴走等で陸上競技部学生3名の協力を得て実施した。 ○各校からの要請に基づき、指導主事派遣し、体育科（保健体育科）学習の授業改善を図った。
②運動部活動の充実	○部活動サポート事業による指導者派遣 ○部活動補助金交付事業による経済的支援	○部活動サポート22名を派遣し、技能及び競技力の向上を図った。 ○各種県大会及び関東大会並びに全国大会の交通費等の経費について支援を行った。
③学校保健事業の推進		
(7) 健康教育の推進	○保健指導教材の整備	○保健指導教材（血管模型）や歯科保健指導教材（位相差顕微鏡・かみかみセンサー）を各校へ貸し出し、事業の充実に努めた。

	○薬物乱用防止教育の推進	○北総地区少年センター職員を講師として、薬物乱用防止教室を実施した。
(イ) 学校保健会の活動の充実	○学校医、学校歯科医、学校薬剤師との連携 ○各専門部会（学校薬剤師、栄養士、養護教諭）の活動の支援 ○「印西市の学校保健」（小冊子）と学校保健会報の発行	○学校保健理事会を1回実施した。 ○学校薬剤師部会を2回、栄養士部会を3回、養護教諭部会を4回実施した。 ○「印西市の学校保健」を1回、学校保健会報を3回発行した。
(ウ) 健康診断の実施と事後措置の徹底	○就学前児・児童・生徒の健康診断の実施 ○健康診断結果の集計と分析 ○個別指導の充実（治療勧告）	○児童生徒への定期健康診断（内科・歯科・耳鼻科・眼科・尿検査・結核等）及び就学時健康診断を実施した。 ○健康診断結果を「印西市の学校保健」にまとめた。 ○健康診断結果に基づき、個別指導を実施した。
(エ) 小児生活習慣病の予防	○小児生活習慣病予防検討部会の開催（学校医、養護教諭、栄養教諭等） ○小児生活習慣病予防検診の実施（小学校5年生、中学校1・3年生対象） ○養護教諭、栄養教諭等による小児生活習慣病予防教室及び事後指導・個別相談の実施	○2回開催し、結果に基づいた事後指導等について検討した。 ○小学校5年生、中学校1・3年生を対象に検診を実施し、必要な児童生徒に受診勧奨を行った。 ○小学校5年生を対象に1単位時間、中学校1年生を対象に2単位時間の予防教室を実施し、必要に応じて個別に事後指導や相談を行った。
(オ) 口腔衛生事業の推進	○学校歯科保健検討部会の開催（学校歯科医、養護教諭、歯科衛生士等） ○学校歯科医、歯科衛生士等による歯科相談・ブラッシング指導の実施	○2回開催し、結果に基づいた事後指導及びブラッシング指導等について検討した。 ○全小中学校で学校歯科医や歯科衛生士による歯科保健指導を実施した。
(カ) 保健室機能の充実	○保健室の整備 ○健康相談の実施	○各校からの要望に基づき、必要に応じて備品等の整備を行った。 ○養護教諭の資質向上と児童生徒の健康課題解決を目指して、養護教諭部会の中に保健指導班を設け、研鑽を積んだ。
④学校環境衛生事業の推進	○環境衛生検査の実施（水質検査、照度検査、空気検査等）	○照度、照明検査、飲料水・プール水質検査、空気環境調査（ホルムアルデヒド・二酸化炭素・二酸化窒素）、ダニアレルゲン検査、配膳室衛生検査を実施した。

施策評価	A
評価理由	概ね計画どおりに実施できた。
今後の課題	中学校部活動の在り方に関する見直し。

(4) 学校給食の充実

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①学校給食の充実		
(フ) 食に関する指導の推進	○「印西市食育ミニマム」や食に関する指導の全体計画に基づいた組織的な指導 ○栄養教諭等・養護教諭・学級担任らの連携による食育指導 ○栄養教室・食育の授業の開催（全小学校1・3年生、希望する小学校の2・4・6年生に実施） ○小児生活習慣病予防検診事後指導の開催（全小学校5年生・全中学校1年生対象）	○職員への周知を強化し、「印西市食育ミニマム」に基づいた組織的な指導を実施した。 ○各種授業や給食時の訪問等で、学校と連携を図りながら実施した。 ○小学校1年生「みんなの給食」、小学校3年生「野菜パワーのひみつ」を全クラスに実施した。小学校2年生「3つのなかもわけ」（19校）、小学校4年生「元気が出る朝ごはんを考えよう」（18校）、小学校6年生「栄養を考えた朝食にしよう」（17校）を希望校で実施した。 ○養護教諭及び給食センター栄養士の指導により、小学校5年生「生活習慣病を予防しよう」、中学校1年生「バランスの良い朝食を食べて生活習慣病を予防しよう」を全小中学校で実施した。

(1) 安全・安心な学校給食の実施	○家庭・地域と連携した食育の推進	○「食育つうしん」を月1回発行し、家庭への啓発を行った。授業終了後、指導内容がわかる保護者資料の配布とともに家庭と連携した事後活動を実施した。
	○ちば食育ボランティア、ちば食育サポート企業の活用	○全小中学校に啓発資料を配布し、活用を促した。
	○献立の工夫と改善	○印西市産の食材を52%，千葉県産を18%使用し、地産地消を推進した。
	○衛生管理の徹底 ○給食残渣等の再資源化 ○食物アレルギーへの対策	○衛生管理に関する研修会を行った。 ○給食残渣の堆肥化を業者に委託し、その再資源化を図った。 ○食物アレルギー調査、食物成分表を保護者に配付し、事故防止に努めた。各小中学校でエピペン研修、心肺蘇生法講習会を実施した。

施策評価	A
評価理由	概ね計画どおりに実施できた。
今後の課題	食物アレルギー対策の充実。

2 安全で安心できる教育環境づくり

(1) 教育環境整備の充実

事業	事業内容(平成29年度目標)	平成29年度実績
①学校施設整備改修事業の推進 【教育総務課】	○大規模改修工事の実施 ○トイレ改修工事の実施 ○校舎増築工事の実施	○木戸小学校改修工事(平成28・29年度継続事業)完了。 ○小学校トイレ改修工事(17校) 完了。 ○小倉台小学校校舎増築工事 完了。
②就学援助の充実	○経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に就学援助を実施	○要保護・準要保護家庭の小学校198名、中学校132名、児童生徒合わせて330名に対して就学援助費を給付した。
③学校備品の計画的な更新	○老朽化した児童・生徒用の机・椅子、教育用パソコン及び楽器の更新	○机・椅子については、1,195組を、教育用パソコンについては177台及びその周辺機器を、楽器については小学校で10品目、中学校で28品目を整備した。
④学校給食センター整備事業	○学校給食センターの整備推進	○滝野学校給食センター改修工事 完了。 印旛学校給食センター空調設備改修工事 完了。

施策評価	A
評価理由	計画的に遗漏なく実施した。
今後の課題	各学校の状況を把握し、教材備品を充実させる。

(2) 学校の適正規模・適正配置の推進

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①学校の適正規模・適正配置の推進	○学校適正規模・適正配置基本方針における検討対象校の適正化に向けた検討と調整	○保護者及び地域住民に対し、学校適正配置に関する意見交換会等を開催した。
	○学校適正配置審議会の開催	○学校適正配置審議会を開催し、進捗状況等を踏まえた今後の対応等について諮詢した。

施策評価	A
評価理由	印西市学校適正規模・適正配置基本方針に基づき、保護者及び地域住民に理解が得られるよう意見交換会を開催した。また、学校適正配置審議会を開催し、進捗状況と今後の対応等について諮詢した。
今後の課題	学校規模により生じる教育指導上及び学校運営面の課題を解消し、より教育環境を整え、教育の質の向上を図るために、引き続き学校の適正規模・適正配置を推進する必要がある。

(3) 学校安全の推進

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①安全教育の充実	○交通安全教室の実施（幼・小・中学校） ○防犯教室の実施（幼・小・中学校） ○避難訓練の実施（幼・小・中学校）	○交通安全教室を全幼稚園・全小中学校で実施した。 ○防犯教室を全幼稚園・全小中学校で実施した。 ○避難訓練を全幼稚園・全小中学校で実施した。
②安全管理の充実		
(ア) 児童生徒の安全確保	○防災計画・学校安全マニュアルの見通しと定期的な施設点検の実施に関する指導・助言 ○防犯ブザーの貸与（小学新入生対象） ○自転車通学用ヘルメット貸与（中学新入生対象） ○メール配信システムの活用（全小・中学校等） ○防災行政無線を活用しての見守り活動の推進（児童の声） ○安全主任等研修会の開催 ○「こども110番の家」の推進 ○台風・雷雨・竜巻等自然災害対応安全指導の充実 ○理科薬品の安全管理の指導	○安全主任研修会で指導・助言するとともに、諸表簿点検の際に指導主事等による確認を行った。 ○防犯ブザーを小学校1年生及び転入生に貸与した。 ○自転車通学用ヘルメットを中学校1年生に貸与した。 ○防犯情報、活動予定等を保護者等にメール配信し、主に緊急を要する情報の提供を図った。 ○継続的に実施した。 ○小中学校の安全主任を対象に、1回の研修会を実施した。 ○PTA等組織及び生涯学習課と連携して実施した。 ○自然災害への対応について、事前に各校へ注意喚起を促すとともに、各校では児童生徒への指導を行った。 ○理科薬品管理簿の点検（全校）と薬品庫の点検（2校）を行い、確認事項や改善が必要な点について指導・助言を行った。
(イ) 通学路の安全確保	○「印西市通学路交通安全プログラム」に基づいた、定期的な通学路安全点検の実施と警察・道路管理者等と連携した対応 ○児童・保護者・教師等の点検による全小学校区の安全マップの作成及び関係機関への配布	○「印西市通学路交通安全プログラム」に基づき、全小学校で通学路の点検を実施するとともに、関係各課・関係機関と連携し、通学路の改善を図った。 ○安全マップを小学校1年生及び転入生に配付した。
(ウ) 学校管理下における災害共済給付	○日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入の推奨 ○災害給付手続きに関する学校への情報提供及び指導	○各校を通じて加入を推奨し、加入率は100%であった。 ○手続きに関する手引きを各校に配付するとともに、研修会等で指導・助言を行った。

施策評価	A
評価理由	概ね計画どおりに実施できた。
今後の課題	登下校における児童生徒の安全確保。

(4) 開かれた学校づくり

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①学校情報公開と地域の連携	<ul style="list-style-type: none"> ○学校ホームページを活用した学校広報の充実 ○教育センターホームページを活用した各学校の取り組みの共有化 ○地域人材の活用（学校・家庭・地域の連携） ○学校評価による学校教育の改善 ○学校公開授業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○全小中学校がホームページを通して積極的に情報を発信し、全校で年間約400万件のアクセスを得た。 ○教育センターホームページで各校の様子や取組を紹介し、情報共有の推進を図った。 ○読み聞かせや高齢者との交流、職業人の講話等、各校の指導計画に基づき、活用の工夫に努めた。 ○各校で学校評価を実施し、結果をホームページ上などで公開した。 ○各校で公開授業（授業紹介の公開日）や休日の参観日を実施し、授業公開の推進を図った。

施策評価	A
評価理由	概ね計画どおりに実施できた。
今後の課題	より積極的な地域人材の活用。

(5) 情報化社会に対応した教育の推進

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①学校教育の情報化の推進		
(7) 教育関係資料の収集・活用・教育広報	<ul style="list-style-type: none"> ○教育資料の収集・活用・提供 ○学校間グループウェアと文書管理システムを活用した教育関係資料・各種文書の電子化及び共有化 ○教育センターホームページによる教育広報推進 ○学校ホームページ及びメール配信システムの広報的機能強化 ○SNS等対応ネットリテラシー教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○各校で実施した研究授業の指導案約220本をデータベースに新規追加し、市内全校で活用できるようにした。 ○教育委員会からの通達文書はグループウェアを利用して円滑に受取・校内回覧が行われるようにした。 ○教育センターホームページに各校の様子や取組を日々紹介し年間27万件余りのアクセスを得た。 ○小中学校ホームページにて日常的に情報を発信しており、市内小中学校全体で年間約400万件のアクセスを得た。 ○小中学校の要請に応じて、児童生徒・保護者を対象に、指導主事等によるSNSネットリテラシー出前授業を4回実施した。
(4) 情報教育及びICT活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○教科指導用ICT関連環境整備の充実 ○校務システムの機能充実・教職員研修の実施 ○校務システムを活用した学籍・成績・保健等の校務情報一元化の推進 ○公簿や文書、教育情報の電子化の推進 ○各システムやサーバー・端末等の適正な運用管理 ○情報セキュリティポリシー遵守の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ○7小中学校のPC教室の端末の入れ替えを行った。 ○生徒指導情報の一元管理について周知を図り、機能利用推進を図った。 ○指導要録をはじめとする学籍・成績の情報を一元管理し、安全性の確保並びに業務の効率化の推進を図った。 ○教育委員会からの通達文書のほぼ全てをデジタル化して、各校へ発信した。グループウェアの機能を利用して、校内デジタル回覧の推進を図った。 ○保守管理の委託業者が適宜対応し、トラブルの未然防止と早期対応を図った。 ○管理職を対象とした研修会及び異動者を対象とした研修会等で情報セキュリティポリシーについて伝達し、周知を図った。

	<ul style="list-style-type: none"> ○教育CIOの配置、ヘルプデスク設置 ○情報教育及び教科におけるICT活用に関する研修の実施及び各学校への出前講座実施 ○学校図書館システムの活用推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○校務システムに関するヘルプデスクを常設し、市内教職員の操作上の質問について迅速に回答することができた。 ○ICT活用に関する校内研修に指導主事を派遣し、指導・助言を行った。また、個別の要請に対しても指導主事が対応し授業での機器利用推進を図った。 ○学校図書館担当者を対象に、2回の図書システム研修会を実施した。
--	---	--

施策評価	A
評価理由	概ね計画どおりに実施できた。
今後の課題	ICT機器導入のさらなる推進。

Ⅱ. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する
[生涯学習・生涯スポーツ]

1 年齢にとらわれずにいきいきと暮らすための生涯学習活動

(1) 生涯学習ガイドの発行

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①生涯学習ガイドの発行	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習ガイドの発行 ○冊子内容を市ホームページでも提供 	<ul style="list-style-type: none"> ○300部発行。講師、講座、団体、資料、物品、施設情報の掲載を行った。各公民館・図書館・学校・コミュニティセンター・保健センター・老人福祉センター等の窓口への配布を行った。 ○市ホームページへの掲載を行った。年度途中に講師情報の追加があった場合は、HPを更新して対応した。

施策評価	A
評価理由	予定の部数を発行し、利用者への便宜を図ることができた。HPでも掲載することにより、情報を得やすくなっている。
今後の課題	生涯学習ガイドの利用の機会を増やすため、他市の生涯学習情報の周知、提供状況について情報を集める。

(2) 市民アカデミーの充実

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①市民アカデミーの充実	<ul style="list-style-type: none"> ○市の行政、福祉、教育、歴史、文化などを幅広く学ぶ市民アカデミーの実施 ○市民アカデミープロジェクトチームによる学習計画の充実・運営 ○公民館・地域交流館などの事業での活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生計25回（延べ973人）、2年生計18回と自主勉強会を随時、地域活動課程計11回（延べ88人）を実施（市役所、各公民館、中央駅前地域交流館等） ○生涯学習推進班より2名、各公民館・中央駅前地域交流館よりアカデミー担当者各1名、社会教育指導員1名により学習プログラムやアカデミー一生の募集の仕方について、協議を行った。 ○谷田武西原っぱと森の会（地域交流館）ふるさと案内人協会（中央）の事業に地域活動過程プログラムで参加した。

施策評価	A
評価理由	公民館・地域交流館6館と生涯学習課で事業を共催し、事業担当を中心に取組むことができた。
今後の課題	事業プログラム検討や、役割分担などについて明確にしていくながら、事業内容の充実に努め、受講者の満足度が高いものになるよう取組む。

(3) 公民館・地域交流館事業の充実

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①公民館・地域交流館事業の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○市民ニーズや社会的・現代的課題をとらえた事業の実施 ○子ども対象事業の実施 ○大人対象事業の実施 ○団体や行政等との共催事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○IT関連講座 4講座（延べ294人） ○整理収納講座 3講座（延べ100人） ○防災・災害対策講座 2講座（延べ29人） ○マネープラン講座 1講座（9人） ○スポーツ、工作、芸能講座等 35講座（延べ33,728人） ○趣味、教養、工芸、料理講座等 28講座（延べ6,258人） ○かるた大会、科学遊び、野外教室等 9講座（延べ438人）

施策評価	A
評価理由	概ね計画どおりに実施できた。
今後の課題	事業参加者数はここ数年横ばいで推移しているものの、ニュータウン区域以外は減少傾向にあり、各館の規模や地域性などの実情に即した事業展開が課題である。

(4) 図書館サービスの充実

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①図書館サービスの充実	○図書・視聴覚資料などの貸出 ○レファレンスサービス・事業・資料の充実	○市内図書館6館において、延べ265,437人の利用者に対し、848,529点の図書館資料貸出を行った。 ○市内図書館6館において、窓口・電話でのレファレンスを24,824件受け付けた。

施策評価	A
評価理由	多くの利用者に図書館を活用していただくことができた。
今後の課題	利用者の要望に応えられるよう資料収集に努めるとともに、図書館サービスについての広報活動を積極的に行っていく。

(5) 視聴覚資料を活用した学習機会の充実

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①視聴覚資料を活用した学習機会の充実	○視聴覚資料の貸出	○機材・教材の貸出しで多くの団体等が活用した。

施策評価	A
評価理由	概ね計画どおりに実施できた。
今後の課題	視聴覚ライブラリー閉鎖後、業務は公民館にて引き継いで実施しているが、本来の公民館事業とは相違があるため、今後は検討していく必要がある。

(6)生涯学習まちづくり出前講座の実施

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①生涯学習まちづくり出前講座の実施	○市民の学習機会を増やし、市民参画のきっかけとなる生涯学習まちづくり出前講座の実施	○市ホームページの他、広報、町内会を回覧で、出前講座の周知に努めた。83件、1,954名が受講した。

施策評価	B
評価理由	昨年と同数の申し込みで受講者数は1,954名に増加した。町内会や高齢者クラブ、サークル等幅広い団体から申し込みがあった。毎年申し込みのある団体、回覧時には新規の問合せもあり、市民のニーズがある。
今後の課題	健康福祉、防災、環境に関する講座の申し込みが多くあった。担当課の協力を得ながら、さらなる利用者の拡大に繋げる。講座数自体は減少傾向にあるため、関係課に市民ニーズに沿った講座の新設について協力を求める。

(7) 生涯学習環境の整備・充実

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①生涯学習環境の整備・充実	○公民館・地域交流館や図書館の適正な維持・改修 ○生涯学習機能の充実 ○社会教育指導員の配置	○各公民館・施設等の防犯カメラの設置、老朽化部分等の改修を行った。 ○各公民館・交流館で、様々なジャンルの主催事業を開催した。また、各図書館において、幼児・小学生を対象におはなし会や図書館探検隊、図書館クイズ、科学あそび、クリスマス会、一般向け講座等各種事業を実施した。 ○生涯学習課に1名を配置し、施策、事業の推進に努めた。

施策評価	A
評価理由	概ね計画どおり実施できた。
今後の課題	施設の老朽化が進んでいるため、計画的に改修を行う必要がある。

(8) 産学官民の連携・協力

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①産学官民の連携・協力	○大学などの高等教育機関や企業などとの連携協力	○順天堂大学公開講座（順天堂大学・印西市・酒々井町共催）を実施。内容はレクリエーション教室、ダンス教室、バスケットボール教室、サッカー教室、10月22日、29日、11月12日、19日の日曜日（全4回）に開催し、市から47名の親子が参加した。
	○市民・市民団体との連携・協力	○市民アカデミーの講師として、NPO法人を含む市民団体を活用し、講座の充実を図った。

施策評価	A
評価理由	順天堂大学公開講座は、参加者のアンケートでは好評であった。
今後の課題	順天堂大学公開講座では、酒々井町および順天堂大学とともに協議し、引き続き参加者の満足が得られる事業運営・内容を継続する必要がある。市民アカデミーでは、講座内容に合致する市民団体があれば更に活用を検討する。

(9) 社会教育関係団体の支援

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①社会教育関係団体の支援	○社会教育関係団体の支援 ○ボランティアの育成や地域で活動する個人・団体のネットワーク化の推進	○補助金による活動支援、事業後援等により活動を側面から支援した。（後援：20事業） ○市民アカデミー地域活動課程で、地域活動に取組む人材の育成を図るべく、実際の地域活動の運営にボランティアで参加する講座を設けた。

施策評価	A
評価理由	社会教育団体への支援、市民アカデミーの地域活動課程の開講など、概ね計画どおり実施できた。
今後の課題	地域活動課程修了者をどのようにして地域活動に参加させていくかが検討課題。

2 地域で子どもたちを守り育てる環境づくり

(1) 「子ども110番の家」の推進

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①「子ども110番の家」の推進	○子ども110番運営委員会などの支援 ○子ども110番ステッカー・看板の提供 ○子ども110番の家災害補償保険の加入	○子ども110番運営委員会を6月に開催し、事業趣旨等の説明により、協力依頼や事業の周知を図った。 ○新規の協力申し込みや、破損等による交換などに対応した。協力家庭数及び事業所数の調査を行った。（1,461件） ○協力家庭及び事業所等の不測の事態に備え、保険に加入了。

施策評価	A
評価理由	協力家庭、事業所の確認作業を行うとともに、看板の破損等の交換にも随時対応することで、実効的な効果を高めるよう努めた。 協力家庭数は目標値の1,620件に比較し、90.2%の達成率であった。
今後の課題	協力家庭数及び事業所等の実態把握のため、現況調査を継続する。子ども110番の事業趣旨をより浸透させ、協力家庭数増加に向け、周知・協力依頼の方法を検討する必要がある。

(2) 青少年健全育成大会の実施

事業	事業内容(平成29年度目標)	平成29年度実績
①青少年健全育成大会の実施	○「社会を明るくする運動」と連携し、親子で参加し、考える機会となる青少年健全育成大会の実施	○「社会を明るくする運動」とともに、7月8日(土)に開催。「社会を明るくする運動」作文コンテスト表彰者の朗読、小学校・中学校、印西ゆめ太鼓による舞台発表を行った。参加者500名

施策評価	A
評価理由	概ね計画どおり実施できた。
今後の課題	健全育成大会側の内容となるが、舞台発表関係が固定化しつつあり、地域で活動している団体等の掘り起こしを検討する。

(3) 地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実

事業	事業内容(平成29年度目標)	平成29年度実績
①地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実	○中学校区ごとに学校や地域で活動する団体が協力し、コミュニティづくりと生活環境の整備を図る地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実	○6中学校区(船穂中、木刈中、小林中、西の原中、竪野中、本塙中)で事業に取組み、安全パトロール、声かけ運動、スポーツ活動、バザー等の様々な事業を地域の団体が連携協力し学校とともに活動した。

施策評価	A
評価理由	推進委員会全体会:平成30年3月23日(金)本塙公民館にて実施。各実施中学校区からの活動報告・状況報告・意見交換を行い、情報の共有化と事業についての理解を深めるなど、概ね計画どおり実施できた。
今後の課題	組織への登録は多數あるが、高齢化してきている状況下で、地域活動の中心になる人をいかに作り活かすか。

(4) 高齢者や異年齢と関わる事業の実施

事業	事業内容(平成29年度目標)	平成29年度実績
①高齢者や異年齢と関わる事業の実施	○世代交流会への支援 ○各種事業への後援 ○放課後子ども教室の実施	○子ども会育成連絡協議会主催事業「世代交流会」の事業運営に協力をってきたが、市子連に加入する単位子ども会が減少し事業が行われなかつた。 ○生涯学習の推進や青少年の健全育成に寄与すると認められる事業を後援。平成29年度は20事業を後援した。 ○平成29年度から船穂小学校でも実施された。竪野小学校48名、本塙第二小学校28名、船穂小学校14名の参加があつた。

施策評価	B
評価理由	各種事業への後援、放課後子ども教室などの事業は順調に実施しているが、世代交流会への支援が実施不可。
今後の課題	子ども会育成連絡協議会の活動が縮小されているなかで、どのような世代交流会支援を行っていくか。放課後子ども教室の実施については、教室を増やすことが課題となっている。

(5) 成人記念式典の実施

事業	事業内容(平成29年度目標)	平成29年度実績
①成人記念式典の実施	○新成人運営スタッフの企画・運営による成人記念式典の実施	○26名の運営スタッフにより、3回の会議を行い、企画・準備にあたり、式典当日の運営を行った。

施策評価	A
評価理由	対象者1,220人に対して、出席者701人であり、概ね予定どおりであった。新成人が運営スタッフとして取組んだことにより、「自分たちの成人式を自分たちで挙行する」という気持ちが感じられる成人式を行うことができた。
今後の課題	迷惑行為を働く新成人等への対応をどのように行い、円滑な進行ができるかを警護面も含め、関係機関との協議が必要である。

(6) 子ども読書活動の推進

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①子ども読書活動の推進	○図書館での読み聞かせ等の実施	○通年で行うおはなし会に1,653名（全館），夏のおはなし会に160名（大森，印旛，本塩），ぬいぐるみといっしょのおはなし会に24名（本塩），クリスマス会に362名（大森，小林，小倉台，本塩），おはなし会スペシャルに88名（そうふけ）の参加者があった。
	○学校での読書活動の推進	○家庭教育学級で図書館司書・学校図書館司書による読み聞かせの指導のほか、ホームページなどを活用した広報・啓発を行った。
施策評価	A	
評価理由	図書館のおはなし会等の催しに多くの幼児や小学生、またその保護者の参加があった。	
今後の課題	図書館のおはなし会等の催しに、より多くの参加者が集まるよう、内容に工夫すると同時に積極的な広報活動を行う。	

(7) 家庭教育学級の充実

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①家庭教育学級の充実	○各公立幼稚園・小中学校での家庭教育学級開設	○必修31学級、学年16学級、計47学級開設。参加延べ人数3,213名の方が学級生として学んだ。
	○家庭教育学級主事会議の開催	○幼稚園長・小中学校教頭に、家庭教育学級主事を委嘱、指導・助言にあたってもらった。4月13日と2月9日の2回主事会議を開催した。
	○家庭教育学級運営委員研修会の開催	○各学級代表者を対象に、4月27日と2月15日の2回研修会を実施した。
	○家庭教育指導員の配置	○家庭教育指導員1名を設置し、指導助言にあたった。
施策評価	A	
評価理由	参加者・修了生を含め、学級活動への参加や主事会議・運営委員研修会も概ね計画どおりに実施することができた。各学級で実施した講座内容について、検証、精査が必要と思われる。	
今後の課題	少子化の影響もあり、1学年の入学者が極めて少ない学校がある一方、地域によっては入居者の増から100名を超える学校があるなど、地域性による学校規模の格差などの課題を含め、内容面で実効性のある家庭教育の学びとはどのようなものが良いか検討していく必要がある。	

3 市民が参加しやすいスポーツ環境の整備と推進体制の充実

(1) スポーツ参加機会の拡充

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①スポーツ情報システムの充実	○公共施設予約システムの有効活用	○公共施設予約システム登録者数3,855組
	○スポーツ情報の集約と多様な情報の提供	○市ホームページ、体育協会ホームページ、広報誌へ各種行事等を掲載し、情報提供を行った。また、体育協会の機関だよりの発行を支援した。（年2回）
②市民参加型スポーツの普及・推進	○市民ニーズに対応した各種スポーツ教室の支援	○アスリート教室（サッカー、陸上）、スキー教室を実施するとともに、体育協会主催の7種目のスポーツ教室の開催支援を行った。
	○高齢者のスポーツ活動の支援	○スポーツ備品等の整備及び貸出しを実施した。
③スポーツによる健康づくりの推進	○ニュースポーツ等の教室・大会の開催及び支援	○スポーツ推進委員による、ニュースポーツ教室（9回）及びニュースポーツ祭（2回）を開催した。
④市民ぐるみのスポーツイベントの推進	○スポーツ医学セミナーの開催	○健康づくりをテーマにセミナーを実施した。

⑤スポーツイベントの誘致	○イベントの開催や各種スポーツ大会・教室の支援	○スポーツフェス（体育の日行事）や実行委員会主催によるラグビーまつり、室内棒高跳を開催した。
	○イベントの誘致	○クライミング日本ユース選手権大会及び関東大学女子駅伝を開催した。

施策評価	A
評価理由	スポーツフェスの開催や、クライミング教室及びリフレッシュ教室（ソフトエアロビクス・リズム体操・ヨガ）を実施し、スポーツ機会の増加を図ることができた。
今後の課題	多様化するニーズに対応する体制づくりが必要である。

(2) 特色あるスポーツ事業の展開

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①クライミングの普及・推進	○団体の育成と施設の整備検討	○市主催事業として、教室（6回）・体験会（6回）・認定会（6回）を実施した。
②パークゴルフの普及・推進	○団体の育成と利用推進	○パークゴルフ場を整備・運営するとともに、体育の日にパークゴルフ場を無料開放し普及に努めた。

施策評価	A
評価理由	概ね順調に事業を行うことができた。
今後の課題	クライミングについて、誰もが気軽に見えるよう、施設整備と運営体制の充実が必要である。

(3) スポーツ・レクリエーション施設の充実

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①利用者の視点に立った施設運営	○スポーツ施設の管理・運営 ・総合体育馆 ・陸上競技場 ・野球場（7ヶ所） ・テニスコート（23面） ・弓道場（2か所） ・多目的運動広場（2か所） ・パークゴルフ場 ・多目的球技場（2ヶ所）	○各施設の利用状況 145, 998人 29, 640人 146, 822人 76, 025人 2, 943人 26, 821人 11, 391人 9, 736人
②学校体育施設利用の推進	○学校体育施設の利活用の推進	○市内小中学校29校を一般開放し、180団体・約4500人が利用している。
③スポーツ施設利用の多様化への対応	○民間施設の有効利用 ・東京電機大学平岡グラウンド ・六軒河川敷広場	○各施設の利用状況 ・東京電機大学平岡グラウンド 5, 229人 ・六軒河川敷広場 2, 705人

施策評価	A
評価理由	概ね順調に事業を行うことができた。
今後の課題	一部の施設においては、大会規模により駐車場が不足している。

(4) スポーツ指導者等の育成

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①スポーツ指導者の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ推進委員活動の促進 ○スポーツ少年団指導者の拡充と資質向上 ○生涯スポーツ等指導者の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツイベントの企画・立案を行った。 (委員数29名 平均出勤日数16日) ○県スポーツ少年団認定養成講習会に参加した。 ○県・郡主催のニュースポーツ研修会等に参加した。
②スポーツリーダーバンクの構築	○スポーツリーダーバンク登録者の活用	○リーダーバンク登録者を取りまとめ、団体等からの要請に応じる体制を整えた。
③スポーツボランティアの育成	○スポーツボランティア活動の促進	○各種スポーツイベントを、ボランティアスタッフと連携し運営した。
④スポーツ団体等の活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ○体育協会への支援と連携 ○スポーツ少年団への支援と連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育協会に補助金を交付し、運営や市民大会等の開催を支援した。体育協会が中心となり、19競技47の市民大会を開催した。 ○スポーツ少年団に補助金を交付し、市交流大会の実施や各大会の開催を支援した。
⑤競技力向上の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○郡民体育大会・県民体育大会への選手派遣 ○トップレベル選手との交流機会の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ○郡民体育大会において、315人を派遣し、17競技25種目、全競技に参加した。（総合2位） 千葉県民体育大会においては、20競技105名を派遣した。 ○ラグビーまつり、関東大学女子駅伝、アスリート健室及び室内棒高跳の開催により、トップレベルの選手との交歓機会を提供した。

施策評価	A
評価理由	事業は概ね順調に実施できた。
今後の課題	各団体ともに充実した活動を行っているが、指導者・スポーツボランティア等の強化育成のため、継続的な支援が必要である。

(5) 総合型地域スポーツクラブへの支援

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①総合型地域スポーツクラブの育成	<ul style="list-style-type: none"> ○総合型地域スポーツクラブの設立支援 ○総合型地域スポーツクラブの充実 ○市民への啓発活動の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○設立に向けた支援（協議や検討）が行えなかった。 ○スポーツ備品等を貸出し、活動場所の確保による支援を行った。 ○総合型地域スポーツクラブのポスターを掲示した。

施策評価	C
評価理由	設立に向けた支援（協議や検討）が行えなかった。
今後の課題	他市町の取り組みを参考にしながら、総合型地域スポーツクラブ設立についての取り組みを検討する必要がある。

Ⅲ. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る[文化]

1 創造性を育む文化・芸術活動の推進・継承

(1) 教育振興基本計画文化芸術編の策定

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①総合的な文化・芸術の振興	○教育振興基本計画文化芸術編の策定	○教育振興基本計画文化芸術編検討委員会会議を年2回開催し計画を策定した。

施策評価	A
評価理由	教育振興基本計画文化芸術編を策定した。
今後の課題	計画に基づき施策を推進し、文化芸術活動の支援及び文化財の保護・活用に努めていく。

(2) 文化・芸術に触れる機会の拡大

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①文化・芸術事業の充実	○文化ホール主催事業等の実施	○鑑賞型9事業、参加型2事業、学校公演型1事業、地域文化振興型1事業の計13事業を実施した。

施策評価	A
評価理由	計画した13事業を全て実施し、鑑賞型有料公演では完売が3事業あり、平均売上率も目標である80%を達成したため。
今後の課題	公演内容によりチケットの売上率に差があるが、集客の見込める事業だけでなく、幅広い分野の文化・芸術事業の鑑賞機会の提供に努め、事業広報の手段や方法についても拡充・検討を行う必要がある。

(3) 市民の自主的な活動の支援

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①芸術・文化活動の支援	○市民文化祭の実施 ○芸術文化団体活動への支援 ○芸術文化情報の提供	○展示部門・催し部門（イオンモール千葉ニュータウン）、発表部門（文化ホール）、大会部門（中央公民館、総合福祉センター）を開催し、多くの参加者及び来場者があった。 期間：平成29年11月1日～11月19日 ○事業の共催や後援により、団体活動の支援を行った。 ○公民館、文化ホール等の窓口へのポスター・チラシ等の配布、関係団体への資料提供を行った。
②地域文化活動の支援	○市民の地域文化活動への支援	○企画提案型協働事業として、木下まち育て塾による印西市木下地区歴史講座事業を開催した。また、印西ふるさと案内人協会や印西地域史研究会の事業を後援するなどの活動支援を行った。

施策評価	A
評価理由	事業は概ね順調に実施できた。
今後の課題	市民に芸術文化に関する発表・活動の場を提供し、引き続き文化芸術の振興を図る。

(4) 子どもをはじめとする次世代の育成

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①子どもたちの文化芸術活動の充実	○文化芸術活動体験の機会の検討	○文化祭において、押花、お茶会、陶芸、大正琴等の子どもが参加しやすい体験会を実施した。
②芸術文化活動を支える人材育成の推進	○芸術文化協会と連携し、地域の文化芸術活動を支える人材育成を支援する。	○印西市芸術文化協会と連携し、各団体の公益的で自主的な活動のサポートを行った。

施策評価	A
評価理由	各事業において、概ね順調に実施できた。
今後の課題	活動体験の機会を通じて、子どもをはじめとした次世代の育成につなげていく。

2 文化財の保護・活用

(1) 文化財の保護

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①指定文化財保護事業	<ul style="list-style-type: none"> ○有形文化財、史跡及び天然記念物の保存 ○無形民俗文化財の継承支援 ○文化財の普及啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ○文化財所有者に対し、保存・管理に関する指導・助言及び文化財保存管理経費に伴う補助金の交付を行った。また、市指定史跡の環境保全に努めた。 補助金交付 6団体 540,000円 ○指定無形民俗文化財の保存会や各伝承者に対し、保存・継承に関する指導・助言を行った。また、保存・継承活動に対し補助金を交付した。 補助金交付 6団体 1,750,000円 ○「印西市の指定文化財」「木下貝層」などのパンフレットを配布し、文化財の周知に努めた。また、文化財防災訓練を実施し、地域における文化財愛護思想の普及と防災意識の向上に努めた。
②文化財基礎調査事業	<ul style="list-style-type: none"> ○仏像調査・石造物調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○旧印旛地域において仏像調査を実施した。また、旧本塁地域の仏像調査の報告書として、『印西市の仏像（本塁地域編）』を刊行した。
③埋蔵文化財の保護事業	<ul style="list-style-type: none"> ○市内主要遺跡調査の実施 ○埋蔵文化財の取扱い事務及び埋蔵文化財包蔵地の保護 	<ul style="list-style-type: none"> ○道作1号墳の発掘調査を行い、箱式石棺を検出した。また、東京工業大学の協力を得て、道作古墳群の非破壊検査を行った。 ○開発行為等に伴う発掘調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地の保護に努めた。

施策評価	A
評価理由	各事業において、概ね順調に実施できた。
今後の課題	道作古墳群をはじめとした史跡等の整備・管理に努め、その活用について引き続き具体的に取組んでいく必要がある。また、文化財保護と活用に向けた各種基礎調査を継続して実施し、成果の公表に向けた準備が課題となる。

(2) 文化財の活用

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①文化財の活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ○有形文化財、史跡及び天然記念物の活用 ○無形民俗文化財の公開 ○埋蔵文化財の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○木下貝層の貝化石採集観察会、民具の収集・公開事業を実施した。 ○指定無形民俗文化財の公開について、事業の周知・支援を行った。また、指定無形民俗文化財映像記録のDVD化を実施し、地域での伝承や教育に活用した。 ○NPO小林住みよいまちづくり会と協働で、道作古墳見学会を実施した。また、道作1号墳発掘調査に係る現地説明会を開催し、発掘成果の周知に努めた。
②印旛歴史民俗資料館運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ○市域の考古、歴史、民俗等の資料の収集・保管・調査・研究及び成果の公表 ○常設展示及び企画展示の実施 ○講座及び体験型事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○願定院・榮福寺開帳調査 ○常設展示 1,228人／291日 企画展示『古代の印旛沼周辺 一宗像・鳥見・麻賀多神社について』427人／23日 ○講演会「印旛沼の歴史 一誕生から大正期まで一」 44人

施策評価	A
評価理由	各事業において、概ね順調に実施できた。
今後の課題	文化財の有効な活用方法について、検討していく必要がある。

3 市史編さん事業の推進

(1) 市史編さん事業の推進

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①市史編さん事業	<ul style="list-style-type: none"> ○市史刊行に向けた資料収集・調査等の実施 ○市史講座等の実施 ○市史及び市史研究誌の刊行 ○市史刊行物の頒布 	<ul style="list-style-type: none"> ○市史編さん専門員編集会議（2回）、同専門部会（108回）を開催した。 ○資料編近現代2に伴う史料筆耕を実施した。（297点） ○資料収集（新聞資料、地域情報紙、広告資料等）・調査（城郭・石塔等）を実施した。 ○市史講座「木下河岸旧記を読む」 実施日 平成29年5月～平成30年2月（全10回） 実施場所 木下交流の杜歴史資料センター 講師 センター職員 参加者 延べ92人 ○市史編さん講演会 演題 残された史料から見る地域社会における伝染病予防対策 実施日 平成30年1月21日 実施場所 中央公民館 講師 中澤恵子氏（印西市史編さん委員） 参加者 16人 ○市史研究誌「印西の歴史」第11号刊行。 ○無償頒布322冊（印西の歴史第10号）、有償頒布266冊

施策評価	A
評価理由	概ね計画どおりに実施できた。
今後の課題	事業を継続するとともに、市史編さん事業の市民への広報を通じて周知・理解を図り、事業への協力を促進し、事業実施体制の充実を図る。

(2) 地域史料の保存と活用

事業	事業内容（平成29年度目標）	平成29年度実績
①地域史料の保存及び活用	<ul style="list-style-type: none"> ○木下交流の杜歴史資料センターの管理・運営 ○古文書等の調査及び収集 ○古文書等の整理及び保存活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○開館日数285日、来所者数3,506人 ○展示事業 常設展示（年間）展示説明10件 ミニ企画展「木下河岸と木下茶船」 会期 4月25日～6月30日（54日間） プロアレクチャ― 4月25日、5月2日、6月1日 ○市内外所在の地域史料に関する概要調査を進め、古文書等の収集を実施した。 ○保管している古文書の整理等を実施した。 ○保管資料の燐蒸消毒を実施した。
②歴史公文書の収集、整理保管	○歴史公文書の引継、整理保管	○平成29年度引継件数 2,444件 保管総数 約34,400点（未整理分見込む）

施策評価	A
評価理由	概ね計画どおりに実施できた。
今後の課題	事業を継続するとともに、地域史料の保存環境の整備に努めつつ史料の調査研究を進め、市史及び歴史資料センター事業で活用を図る。

4 評価のまとめ

(1) 評価内訳

具体目標における主な事業毎の評価内訳は、以下のとおり。

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む [学校教育]

1 学ぶ力、豊かな心、健やかな心と体を育む教育の推進

番号	重 点 施 策	評 価
(1)	学ぶ力を育む教育の充実	A
(2)	豊かな心を育む教育の充実	A
(3)	健やかな体を育む教育の充実	A
(4)	学校給食の充実	A

2 安全で安心できる教育環境づくり

(1)	教育環境整備の充実	A
(2)	学校の適正規模・適正配置の推進	A
(3)	学校安全の推進	A
(4)	開かれた学校づくり	A
(5)	情報化社会に対応した教育の推進	A

II. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する [生涯学習・生涯スポーツ]

1 年齢にとらわれずにいきいきと暮らすための生涯学習活動

(1)	生涯学習ガイドの発行	A
(2)	市民アカデミーの充実	A
(3)	公民館・地域交流館事業の充実	A
(4)	図書館サービスの充実	A
(5)	視聴覚資料を活用した学習機会の充実	A
(6)	生涯学習まちづくり出前講座の実施	B
(7)	生涯学習環境の整備・充実	A
(8)	産学官民の連携・協力	A
(9)	社会教育関係団体の支援	A

2 地域で子どもたちを守り育てる環境づくり

(1)	「こども110番の家」の推進	A
(2)	青少年健全育成大会の実施	A
(3)	地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実	A
(4)	高齢者や異年齢と関わる事業の実施	B
(5)	成人記念式典の実施	A
(6)	子ども読書活動の推進	A
(7)	家庭教育学級の充実	A

3 市民が参加しやすいスポーツ環境の整備と推進体制の充実

(1)	スポーツ参加機会の拡充	A
(2)	特色あるスポーツ事業の展開	A
(3)	スポーツ・レクリエーション施設の充実	A
(4)	スポーツ指導者等の育成	A
(5)	総合型地域スポーツクラブへの支援	C

III. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る [文化]

1 創造性を育む文化・芸術活動の推進・継承

(1)	教育振興基本計画文化芸術編の策定	A
(2)	文化・芸術に触れる機会の拡大	A
(3)	市民の自主的な活動の支援	A
(4)	子どもをはじめとする次世代の育成	A

2 文化財の保護・活用

(1)	文化財の保護	A
(2)	文化財の活用	A

3 市史編さん事業の推進

(1)	市史編さん事業の推進	A
(2)	地域史料の保存と活用	A

※ 評価基準

- S …事業の目標が達成され、計画以上の施策の進捗が認められる。
- A …事業の目標が概ね達成され、施策の進捗が認められる。
- B …目標が一部達成できなかった。
- C …未達成事業が多く、施策の進捗がほとんど認められない。

各施策、主な事業の目標に対しては、進捗、達成度を総合的に判断し、S～Cの4段階の基準において自己評価しました。

今後の方向性としては、P D C Aサイクルの一連の検証をもとに事業を進めることが重要であり、印西市教育委員会の機能充実と活性化を図っていきたいと考えております。

(2) 施策別評価

主な施策における主な事業の評価内訳数は以下のとおり

番号	政策	主な 施策数	主な 事業数	主な事業の評価数			
				S	A	B	C
I	生きる力を持ち未来を拓く 子どもを育む 〔学校教育〕	2	9	0	9	0	0
II	生涯を通して学びスポーツ に親しめる環境づくりを推進する 〔生涯学習・生涯スポーツ〕	3	21	0	18	2	1
III	心に豊かさをもたらす文化 の保護と振興を図る〔文化〕	3	8	0	8	0	0
計		8	38	0	35	2	1

(3) 学識経験者の知見の活用

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第2項には、事務事業の点検及び評価を実施するに当たっては、教育に関し学識経験を有する方の知見の活用することが定められております。

このため、印西市教育委員会では事務事業が適切に実施されているか、学識経験者3名から書面で意見をいただいております。

※敬称略

分野	氏名	役職
学校教育分野	内田圭子	元印西市内中学校長
生涯学習分野	板倉脩	元社会教育指導員 元家庭教育指導員
スポーツ振興分野	菊地謙治	現印西市体育協会会长

《学校教育分野》

印西市第2次基本計画(平成28～32年度)の2年目に入り、学校教育の主な政策「I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む」は、「1学ぶ力、豊かな心、健やかな体を育む教育の推進」と「2安心・安全な教育環境づくり」の2施策を柱に、主な9事業により推進されました。どの事業も前年度の課題を踏まえた実績が見られ、わかりやすくまとめられています。

I 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む

1 学ぶ力、豊かな心、健やかな体を育む教育の推進

本施策では、「生きる力」の根本をなす「知」「徳」「体」とこれらを支える「食」を柱に、学校教育の推進を図る多くの事業が展開されています。実績欄には具体的な数値も記載され、どの項目も適切に自己評価されていると思います。

(1) 「学ぶ力を育む教育の充実」について

① 「学習指導の充実」

「学ぶ力」の育成に向け、主に児童生徒の学力向上、教職員の研修、調査・研究の面から取り組まれています。

(ア) 「個性や能力を伸ばす教育の推進」では、基礎学力の定着と学習意欲の向上をねらいとした印西市独自の取り組みが、教育センターを中心に進められており、「漢字マスター」・算数計算「ILM」・社会科ワークテストは、学校への周知も図られ、順調に継続されています。2,800～2,900名が受検したということは、特筆すべき成果だと思います。ただし受検者数から考えると、各校の教職員からなる5名の運営委員や採点業務を担う職員の負担軽減も課題の一つかと思います。

市内外大学との連携による学生ボランティアの活動は、学生・各学校の双方に良好な効果や影響を与えていていると思います。

(イ) (ウ) (カ) では、教職員の研修が、年間を通して様々な機会に実施されていることがわかります。働き方改革が叫ばれ多忙化が問われる中で、教職員の本務と直結する研修時間の確保は一つの課題です。印西市は、学校規模に大きな差があり、小規模校においては主任等を多く兼任しているため出張研修への出席が厳しい学校もあるかと思います。研修の保証と多忙化解消双方への手立てや工夫が必要かと思います。

(イ) に加えて、県の方針を受け各市町単位での「初任者研修」が夏季に1回実施されていると思いますので、実績として加えてもよいのではないでしょうか。また「学年主任研修」が「計画実施なし」となっていますが、今後若手の学年主任も予想されるため、2年に1回程度でも新しい学年主任には受けてほしい研修です。講師は、現学年主任でなくても学年主任を経験した教務主任や教頭先生の中からも選び、小中ごとに分けることで、より具体的な研修となるのではないかでしょうか。ミドルリーダーとしての意識を持たせ、力をつけさせたいと考えます。

(ウ) 市教育センター指導主事による「SNSネットリテラシー」出前授業は工夫された内容ですが、一昨年の12回から昨年は4回となっています。数年でどの学校も実施済みとも考えられますが、ぜひ多くの学校で一度は実施してほしいと思います。市教育センターが開発した事業の一つです。

(エ) 「校内研修」の支援については、各教科の授業研修や道徳の研究指定校に積極的な指導・助言が行われています。教職員の学習指導力の向上を図る最も有

効な手段であり、各学校も熱心に取り組んでいます。

(才)「教育課題の調査・研究・開発」では、全国学力調査・県標準学力検査の結果や課題を分析し、市教育センターにおいて各冊子にまとめて各校に配布し活用を図っています。加えて「教育課題の解決・提案」として、「学校評価」の共通基本項目を検討委員会で作成し、校長会等で各校に提案していますので、実績として上げられるのではないかと思います。

② 「幼児教育の充実」

29年度瀬戸・もとの両幼稚園の園児は、3歳～5歳合わせて334名でしたが、本市にはその数倍の就学前の幼児がおり、その多くが市内の小学校に入学します。

(ア)に情報の交換や提供が掲げられていますが、両幼稚園のみならず保育園・こども園・私立幼稚園とも連携し、就学前児の状況把握に引き続きご尽力いただきたいと思います。また個々のニーズに応じた適切な支援は、保護者や子ども発達センター、小学校との連携を一層深めながら推進していく必要があります。市内の幼児・児童の増加傾向を見据え、今後も個別の支援計画が継続してわかる「コスモスファイル」の充実と活用が望されます。

幼稚園に配置されている非常勤職員の果たしている仕事内容は幅広く、今後も必要性の拡大が見込まれるため、質実ともに充実することを願います。

③ 「読書活動の推進」

幼い時期からの読書と、学力の相関関係は大きいと言われています。読書の時間や空間（環境）の確保は、極めて重要です。小学校において司書不在のため、図書館での読書活動が滞ることがないよう常時開館に向けて人的な整備をお願いしたいところです。(ウ)にあるように学校図書館司書が1名増員したことは大きな意味がありますが、市内には児童数が800名～1,000名の学校もあります。一人当たりの蔵書率等の問題もありますが、まずは学校規模を配慮しつつ、全小学校において週に2日から3日の配置が本来望ましいと考えます。

(ア)の蔵書点検については、前年度の10校から3小中学校となっています。一応の区切りがついたと考えられますが、今後も計画的な実施をお願いします。3,000冊を超える団体貸し出しやスクール便など、市立図書館との連携が、効果を上げていると思います。

④ 「国際理解教育の推進」

2020年を目前に控え、新学習指導要領での小学校英語の開始に向け、様々な事業に積極的に取り組んでいることがわかります。ALTや英語教育コーディネーターを活用し、小学校低学年から英語への興味関心を高める環境作りが順次整備されています。小学校英語の開始前に、小学校職員と学区中学校英語担当職員との連携を図る研修会や、市内共通の資料作りも必要かと思います。

中学生海外派遣研修も2回目となり、各学校でも定着し始めてきているのではないでしょうか。「イングリッシュ・トレセン」も軌道に乗った事業となっています。

⑤ 「特別支援教育の推進」

(ア) 「特別支援体制の充実」

小中学校における介助員・学習指導員は、各学級の学級経営や学力の向上、学習指導に甚大な貢献を果たしていることは、言うまでもありません。前年度より

介助員が減り、指導員が増加しています。児童生徒の実態に応じた配置を毎年きめ細かく検討しているからだと考えます。児童生徒数の増加傾向の中で、今後も必要に応じた配置をぜひ継続してお願いしたいと思います。

(イ) 「就学指導の推進」

就学指導委員会が3回開催となったのは、対象者の増加が大きな理由ですが、よりきめ細かな対応のため、小学校入学時だけでなく途中学年や中学校進学時の入級、特別支援学校への転出入など、一人一人の状況に応じた熱心な話し合いが進められているからだと考えます。「委員会」の名称については、他市町も参考に今後検討し判断してほしいと思います。

⑥ 「キャリア教育の推進」

小学校職場見学学習や、中学校職場体験学習（「印西市生き活き体験」）は、キャリア教育推進のための有効な手段だと考えます。また同時に地域との連携にもつながっており、今後も児童生徒に学習の場を保証するよう教育委員会の支援をお願いしたいと思います。学校ごとに児童生徒の人数に差があり、事業所の確保に苦慮している場合もあるかと思いますので、調整や助言を引き続きお願いします。

自己評価の「今後の課題」に、「各種研修会の内容・実施回数の見直し」とあるように、教職員の負担増を考慮し、回数をしぶっても一つ一つを丁寧に研修し充実させたいところです。また事業として定着したものも、常に見直し改善することが重要です。「きらり輝く」の事業は、この度事業項目としてはなくなりましたが、整理され他事業の中に生かされています。

(2) 「豊かな心を育む教育の充実」

① 「道徳教育の充実」

道徳の教科化に向けた各校の取り組みは、授業内容・指導法に加えて、評価の手段・方法についてなど多岐にわたっています。教育委員会の指導や適切な情報提供、きめ細かな支援を引き続きお願いしたいと思います。また小中学校では、道徳性や道徳的実践力を身に付けるために有効な体験学習・交流学習・奉仕活動・協働学習も行われており、実績の一つと考えます。

② 「人権教育の推進」

小中学校全校で人権教育に関する校内研修を実施したことは、大変評価できます。

いじめ防止も根底に人権意識や人間愛が涵養されていなければなりません。「いじめ」については、「アンケートの定期的な実施」の後「事後相談」が行われ、アンケートが生かされています。

各学校に「いじめ」や「セクハラ」等の相談窓口が設定されていますが、担当者の周知とともに、誰にでも相談しやすい雰囲気や環境作りを引き続きお願いしたいと思います。

③ 「芸術文化体験事業の充実」

児童数の増加により、日程等の調整が難しい場合もあるかと思いますが、合唱、吹奏楽、伝統文化に触れるこことできる児童生徒の貴重な体験の場として今後の継続を希望します。

④ 「体験活動の推進」

教育センターが主催する自然観察会や親子体験学習は毎年盛況で、申し込みもすぐ定員に達する状況です。児童はもちろん仕事を持つ保護者への情報提供にも配慮し、親子の期待に応えるため、継続をお願いしたいと思います。

⑤ 「郷土愛を育む教育の推進」

伝統校、ニュータウン地区の学校ともに課題を抱えています。学校の統廃合による伝統芸能の継承や大規模校の展示室確保の問題もあり、今後の工夫が必要かと思います。創立100年を超える伝統校は、児童数減少の課題を抱えておりますが、ニュータウン地区の学校では、学校アンケートなどから郷土愛の意識が低いことも以前見受けられました。郷土愛・地域愛は、伝統文化に加えて今在る文化・自然・人間関係において「おらが学校・おらほの地域」の意識を育むことが重要です。子ども達に将来も郷土に住み活躍したいという想いや地域愛を育てる事業の開発や継続を地道に進めていただくことを望みます。

地域教材や先人の業績では、印旛・本塙・印西地区で現在活躍している人材の紹介や取材・ミニレター（小説家・オリンピック選手・地道にこの道一本）などを他課とも連携しながら、蓄積・発信していくことも郷土愛につながるのではないかでしょうか。

⑥ 「適応指導教室事業の推進」 ⑦ 「教育相談の充実」

適応指導教室「緑のまきば」への通室者は、中学生が前年度よりも約1.5倍に増えましたが、改善した児童生徒は前年度の6名から19名と約3倍に増加しています。教育センターと学校との連携や通室者・保護者の並々ならぬ努力の表れであろうと思います。今後も子どもの中に潜む生きづらさ・学校への行きづらさの兆候を、いち早く発見し対応することで、このような改善が図られるものと期待しています。

⑧ 「学校問題対策の指導・支援」

学校問題対策指導員は、管理職を含む教職員の相談役として機能しています。相談の内容は幅広く、経験に基づいた指導・支援が、効果を上げています。

（3）「健やかな体を育む教育の充実」

① 「学校体育の充実」

小学校においては、1学期は陸上競技、2学期は駅伝・持久走、3学期は縄跳びなどの種目に、全校で取り組む学校が多く、業間休みを利用した体力向上を行っている学校も多いようです。学校での練習や努力を披露する場が、陸上競技大会や小学校駅伝競走大会などで保証され、子どもたちにとっても励みや目標となっています。

② 「運動部活動の充実」

中学校の部活動については、すべての部に経験のある指導者を配置することは難しく、部活動サポート事業は、学校への力強い支援となっています。サポーターの力量や資質はもちろん学校指導体制への理解等配慮すべき点もありますが、働き方改革の一環としても一層の期待が高まります。また部活動総合体育大会には、交通費が補助されるため、保護者の負担軽減につながっています。

③ 「学校保健事業の推進」

学校保健事業は、医師会・薬剤師会他関係機関との連携を密にして、どの事業も計画的に進められています。

(ア)「健康教育の推進」については、各学校で毎年作成される「学校保健計画」に沿って実施されています。授業に必要な「保健指導教材」の整備や、「薬物乱用防止教室」、その他各学校での事業について、今後とも指導・支援をお願いしたいと思います。

(ウ)「健康診断の実施と事後指導の徹底」(エ)「小児生活習慣病の予防」(オ)

「口腔衛生事業の推進」では優れた実績が見られます。学校医や学校歯科医、歯科衛生士と学校とが連携して未病や児童生徒個々の事後指導に努めています。「ブラッシング指導」は児童生徒の発達に応じた内容が工夫されていますが、年に1～2校でも家庭教育学級と連携した「大人の歯磨き教室」の企画があると、保護者の意識改善につながり、子どもの意識向上にもつながるのではないかと思います。

(カ)「保健室機能の充実」として、各学校では養護教諭を中心に、熱中症・インフルエンザ等の感染症やけがの予防、けがの適切な処置や指導、心身に関わる悩みや相談を日常的に行っています。いじめやセクハラの窓口となっている場合も多く、仕事内容は多岐にわたっています。今後も保健室においてきめ細かな指導ができるよう、各学校が抱える問題を把握し、支援をお願いしたいと思います。

④ 「学校環境衛生事業の推進」

毎日の水質検査のほか、年2回、薬剤師による照度・空気環境・ダニアレルゲン検査が行われ、適正でない場合は指導を受けます。空気環境は空調整備事業により改善が見込まれますが、照度不足やカーペットのダニアレルギーの問題にも、実態把握と計画的な改善をお願いします。

(4) 「学校給食の充実」

中央学校給食センターが整備され、9月より本格稼働しました。3施設の給食センターから新しいシステムで配食され、児童生徒や保護者の关心や期待が高まっていると思います。

(ア)「食に関する指導の推進」では、栄養教諭・栄養士部会で作成した「印西市食育ミニマム」による栄養教室や食育の授業が計画的に行われ、定着しています。全小学校の1・3学年だけでなく、2・4・6学年でも実施を希望する学校が増えていることは望ましいことです。

(イ)にあるように、食はまず安全からのスタートが基本です。また食育の推進の面からも地産地消は重要で、市内産が50%を超え、県内産と合わせて70%に達したことは、各センターの努力のたまものといえます。

「食物アレルギーへの対策」として、アレルギー配食に向け、学校と協力・連携して調査研究や会議を重ねています。また外部有識者を含む「給食委員会」も年に数回開かれ審議されているので、それらの結果も踏まえて実施に向け引き続き対策の充実をお願いします。アレルギー食の提供は市としては初めてですが、材料選定から子どもの口に入るまで、安全性を第一に進めていただきたいと思います。

2 「安全で安心できる教育環境づくり」

5つの主な事業により、学校の教育環境の整備とその安全性の確保に努めた事業が幅広く展開されています。評価項目はいずれも具体的な内容が示され、内容も総合的にみて妥当であると考えます。

(1) 「教育環境整備の充実」

① 「学校施設整備改修事業の推進」

小学校トイレの改修・洋式化が完了し、衛生面の向上とともに、災害時の避難拠点としての役割にも対応しやすくなりました。

大規模改修工事については、27・28年度で船穂中、28・29年度で木刈小と順次進められてきましたが、29・30年度で実施する学校はないのでしょうか。毎年1校ずつ改修しても30年近くかかるので、計画的な実施で教育環境整備や災害予防に尽力してほしいと思います。今年度のような猛暑の中、本市では小中学校の普通教室空調整備がすでに完了していたことは、機を逸しない事業実績であったと思います。

② 「就学援助の充実」

家庭の経済面での2極化傾向がみられる中、教育の機会均等に関わる事業として、困窮する家庭へ適切な援助が行われています。

③ 「学校備品の計画的な更新」

特に児童生徒の机・椅子の老朽化が急務な課題でしたが、小学校1年から毎年順次整備が進められています。ただ中学3年まで9年間を要するので、それまでの間中学校の状況が心配されます。A版対応への切り替えを早急に行い、整備後も計画的な更新の実施を望みます。また先程文科省から教科書の学校保管に関する内容の通知が出されました、保管場所の確保や管理方法などについても、必要に応じ検討をお願いします。

④ 「学校給食センター整備事業」

学校給食センター整備事業は、教育委員会としても大変大掛かりな事業として進められてきましたが、滝野・印旛センターの改修工事が完了し、3施設4センターでの配食がいよいよ本格実施となりました。安全・安心をモットーに今後も滞りなく配食できるよう10年先までの見通しを持って、設備の点検や更新を遺漏なく実施してほしいと考えます。

(2) 「学校の適正規模・適正配置の推進」

印西市の小中学校は、50人以下から1,000人を超える学校までが混在し、2極化の傾向は一層加速しています。子どもが学ぶ場として望ましい教育環境や児童生徒数、職員の配置等を検討し、「印西市学校規模・適正配置基本方針」が策定されています。

収容学級数を超える大規模校は、改修・増築工事に着手し、学習環境の整備が進められています。また通学区の適正化についても検討し、小学校の学区について審議し答申を得るなど調整を図っています。小規模化している学校についても教育委員会で必要な資料を作成し、地域での意見交換会を開催して印西市全体の課題として理解を得ることに努めていると思います。学校ごとに実情も異なると思いますので、保護者や地域住民が主体となって現状の解決に向け十分にまた建設的に意見交換をし、将来を見据えた結論が導き出されることが肝要だと考えます。場合によっては、5か年計

画などより具体的な内容に踏み込んだ第2次答申の策定も視野に入れておいてよいかと思います。

(3) 「学校安全の推進」

学校を取り巻く環境や施設の安全が保持され、児童生徒が心身ともに安心感や信頼感を持って生活できることが学校の根底にあり、その上で学力や体力の向上に集中して臨むことができると考えます。

① 「安全教育の充実」

各学校では、「学校安全計画」を作成し、交通安全教室・防犯教室を教育委員会の指導のもとに実施しています。避難訓練では、地震・火災・不審者対応の訓練を計画的に実施していますが、ここ数年の異常気象を考えると地域の実態に応じて、豪雨・洪水・竜巻などの対応も学校ごとにシミュレーションし、適切な訓練を行うことが必要だと思います。訓練は繰り返し行うことで、様々な状況下での判断や避難対応が適切にできるようになっていきます。登下校中の被災に備えた指導は、ブロック塀のみならず具体的に行う必要があると思います。

② 「安全管理の充実」

(ア) 「児童生徒の安全確保」として、防犯ブザーや自転車通学用ヘルメットの貸与、こども110番の家等様々な手段を講じて安全確保に努めていると思います。メール配信システムは、即時に保護者に情報を提供でき有効に活用される手段です。保護者には市の防災メールと併用して活用することを推奨してほしいと思います。薬品庫の点検は、28年度7校でしたが、29年度は2校となっています。学校数を考えると、毎年計画的に実施し、3~4年に1回程度は実施するのが望ましいと思います。

(イ) 「通学路の安全確保」は、交通事故から身を守ること、危険個所の回避、不審者からの被害にあわないこと、自然災害時の対応などがあり、ハード面ソフト面ともに万が一に備える指導が重要です。

(ウ) 「学校管理下における災害共済給付」については、子どものけがや事故の際に、センター法に基づき迅速に適切な処理を行っています。掛け金の半額補助により、100%加入が実現しています。

「今後の課題」に「登下校の安全確保」があげられており、ぜひお願いしたいところですが、このほかに人為的な問題としての、家人からのネグレクト・虐待等から子どもの安全を確保しなければならない場合もあるかと思います。関係機関との連携の上迅速に対応し、今後も様々な場面・事例を想定した危機管理を推進していただきたいと思います。

(4) 「開かれた学校づくり」

「開かれた学校」自体は、一時期よく使われた用語ですが、具体的には事業名にあるように、「学校の情報公開」と「学校と地域との連携」による教育効果の向上をねらいとしています。時機を見て、<例>(4)を事業名の「学校情報公開と地域連携」とし、事業項目を①「学校・地域の教育情報公開」②「地域・家庭との連携」等、事業を2本に柱立てて、検証した方がわかりやすいと考えます。

「学校ホームページ」については、アクセス数も前年度より50万件増加し、保護者や祖父母また転入を希望する方などから幅広く关心や期待が寄せられていることが

わかります。「学校評価による学校教育の改善」については、学校評価のミニマムを作成し、学校の特徴を生かしながらも、最低限の評価ラインを全小中でそろえたことは実績の一つではないかと思います。

「地域人材の活用」が今後の課題とありますが、教育センターで開催されている体験授業などの講座も地域との連携の一環として評価されると思います。伝統校の歴史資料の紹介なども、教育センター発信の材料・情報提供の一つとなりうるのではないかと思います。学習に関わる地域の人材や教育資源、幅広い地域ボランティアの活用は、情報収集に時間を要するかと思いますが、今後多くの人材・教育資源を得て、学校や地域の特色を生かした事業が推進されるよう望みます。子どもたちの郷土への关心や愛着は、地域に住む一人一人とのつながりから始まるものと考えます。

(5) 「情報化社会に対応した教育の推進」

小学校からのプログラミング教育など児童生徒の学習面からも、また教職員の教材開発や事務効率向上の面からも、情報教育や情報機器の活用は欠かせないものとなっています。

① 「学校教育の情報化の推進」

児童生徒の情報の一元化を図る「校務システム」の整備は、他市町に先駆けて開発・実施され、効果を上げています。県内外からの問い合わせもあり、先進的な実践により実績を残しています。

また「学校間グループウェアと文書管理システム」の整備により、ペーパーレス化も促進されています。データの整理と蓄積により、事務管理の効率化が図られるようになりました。保守管理については、教育委員会内外に即時対応の人材を確保している状況ですが、できれば500台を超える職員端末と各校40台の児童生徒用端末専任のシステム補修専門エンジニアを配置していただくことが望ましいと思います。誰にでも平易で使いやすく効率の良いＩＣＴの活用と、情報の安全性の確保が同時に担保されなければなりません。もしもの時の一手を幾重にも用意していただくことが肝要かと思います。

以上、「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」が、偏ることなくバランスよく育成される事業が組まれ、前年度の課題が生かされた実績と評価がなされました。表記・表現も細部まで見直され、整理されていました。また9事業全てにおいて、A評価となったことは、結果のみならずそれに至るまでの各課の取り組みや印西市の特色を生かした着実な歩みが進められていることの証だと考えます。今後とも、一層の学校教育事業の推進を期待しています。

《生涯学習分野》

どの項目についても29年度の実績について的確な「施策評価」「評価理由」「今後の課題」が記されていると感じます。

報告書に書かれている24項目の中で、施策評価「A」が22項目、「B」が2項目と優れた結果を出されています。

II 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する

1 年齢にとらわれずにいきいきと暮らすための生涯学習活動

今年度発行の「生涯学習ガイド」も幅広い情報を丁寧に作成されており、どの年代の人にとっても読みやすく利用しやすいと思われます。更に多くの市民が手にすることができるよう、集会や会議等での啓発活動を試みることや、公的な施設への配布だけでなく、私的施設への配布等も検討してはいかがでしょうか。

市のHPへの掲載は良い取り組みと考えます。

(2) 「市民アカデミーの充実」

29年度の実績に書かれてあるように「1年生」「2年生」「地域活動過程」のどれもが充実した活動であると思います。市職員から市政活動の実態と課題について学ぶ事は、市政を身近に感じ、市政に興味を持つためには必要な講座と思います。大学の教授から歴史や健康等について専門的な事を学ぶこと、地域で活躍する市民の話を聞いて学ぶこと、また印西市を出て様々なことを学ぶことはアカデミー講座の魅力ある講座の一つです。今後も続けていくことを強く希望します。

市には市民活動団体が多く存在します。アカデミーとして交流を増やしていくことで更に楽しい学習も可能になるのではないでしょうか。

「市民が望む講座」「応募方法」「卒業生の活躍の場の確保」等々、今後も考えていかなければならぬ事もあります。現状を良しとせず、更に挑戦して欲しいと思います。

(3) 「公民館・地域交流館の充実」

それぞれの館が工夫して事業を進めていることがわかります。評価が「B」から「A」となっていることに各館の事業の充実さが窺えます。「ニュータウン地区以外は参加人數が横ばい」とありましたが、市民に必要だと考えて企画し、実施した事業であっても集客が定員に満たないこともあるかと思います。難しい問題です。地域住民のニーズを得るためにアンケートを探すことや他市町の情報を得ること、斬新な企画等はすでに実施されていると思いますので、集客数を見ながら集客への取組み方法を考えることや定員数を減らす等を考えても良いのではないでしょうか。

今後も「行ってみたい公民館・地域交流館」「行ってよかった公民館・地域交流館」を心がけ、地域密着の場所となり続けることを望みます

(4) 「図書館サービスの充実」

延べ26万人以上の利用者がいることやレンタルの受付が増えていることは、図書・視聴覚資料と図書館のソフト面の充実を物語っていると思います。新刊本、DVD等

について今後ますます増えてくる市民の要望にこたえられる図書館を期待します。

(5) 「視聴覚資料を活用した学習機会の充実」

家庭教育学級での使用が主な実績だと思います。3年間家庭教育学級を担当していた時に感じたことですが、確かに1回毎の家庭教育学級での参加者は多くありませんでしたが、資料は大変に良いものなので多くの人に視聴して欲しいと思っていました。今後も市民のニーズを積極的に得て、新しい作品を市民に提供できると思います。決められた予算の中で大変とは思います。保存資料を広く紹介する等の活動が大切になると思います。

(6) 「生涯学習まちづくり出前講座の充実」

事業の目標を解決するためには大変に素晴らしい取組みと考えます。今後も、事業の認知度の高まりとともに利用が大きく伸びていくと考えられます。また、より専門的な知識を得たいと考える市民も増えてきます。異動のある職場なので研究・調査をして講座の講師として出向くことは大変なことだと思いますが、継続と充実を願っています。

施策評価が「A」から「B」になっていましたが、幅広い団体から申し込みがあり参加者数も増えていることは事業として良い方向で定着しているものと思われます。

(7) 「生涯学習環境の整備・充実」

安全面、使いやすさを考え継続的・計画的に公民館、地域交流館、図書館の改修を進めていかなければならないと考えます。館によっては、多くの事業が重なると駐車スペース確保が問題となり、近隣の私施設との連絡調整が必要になります。

館の計画的な改修については「改修」「廃止」「新築」「合併新築」「他施設への移転」等考えることも必要になってくるのではないかでしょうか。安全面については、早急に対応していかなければならないと考えます。

(8) 「産学官民の連携・協力」

今後、更に専門的分野の知識を得たい、活動をしたいという市民の声が増えてくると思います。全てに対応することはできませんが、今後も大学や企業の協力を求めていかなければならないと思います。

貴重な事業ですので、今後も広く人材を求め充実した内容で持続していくことを望みます。

(9) 「社会教育関係団体の支援」

積極的に活動している社会教育団体への支援は今後も必要です。しかし、継続期間について市と関係団体との話し合いが必要です。経済的支援と運営支援とを分けて考えることも大切です。地域活動の窓口になる仕組み作りの確立を期待します。

市民アカデミー地域活動修了者には、市内地域活動団体の情報を提供し、参加を促してはどうでしょう。個々に話してみることも考えられます。

2 地域で子どもたちを守り育てる環境作り

(1) 「こども110番の家」の推進

「こども110番の家」のステッカーは多く目にすることができます。目標の90.2%の達成率とありますが設置する家が増えることで、その地域は犯罪防止に積極的であることを示すことができます。引き続き設置の協力を求めていくことは必要と考えます。「挨拶を交わし合う地域は犯罪が少ない」と犯罪防止の専門家が言っていました。運営委員会時に一言触れていただければありがたいです。印西市の子どもの事故・事件が少ないので、取組みの効果の現れだと思います。

(2) 「青少年健全育成大会の実施」

企画運営には様々な機関からの要望もあり大変なことと思います。課題となっている「参加者の増加」「大会の啓発活動」については、引き続きの検討を望みます。

事業は「青少年の健全育成」のためには大切と考えます。今後も魅力ある大会となるようお願いします。「地域で活動している団体等の掘り起こしを検討」とありましたが、目立った活動をしている団体ばかりでなく、地域の人たちが楽しんで活動している団体の発表でも良いのではないでしょうか。

(3) 「地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実」

地域のコミュニティ作りの一つの方法としては有効な事業と考えます。実施中学校区の拡大を図るとともに、今一度「ねらい」「必要性」について話し合いをする必要があると思われます。

(4) 「高齢者と異年齢と関わる事業の充実」

登録団体の減少、活動の縮小という現状の中で、異年齢と関わる活動を今までと同じように実施することは難しいことと思われます。29年度の実績にある「グランドゴルフ」等を異年齢で楽しめる活動を続けていくことが事業の充実になっていくと思われます。

多くの小学校で行っている「昔の遊びをしよう」やアカデミーで実施している「小学生とのふれあい活動」のように、無理のない方法で実施することも一つの方法と考えます。

(5) 「成人記念式典の実施」

成人者に自覚を持ってもらうためにも、運営委員会方式は今後も続けて欲しい体制です。式典の企画運営に関わる仕事が主ですが、今後は出演協力者との交渉等にも関わること等、一歩進んでいくことも考えて欲しいと思います。(学業や仕事で忙しいとは思いますが)当日の無事故、安心して出席できるように企画運営を考えて欲しいと思います。

(6) 「子ども読書活動の推進」

図書館での読み聞かせに参加する人数の多さから、子どもの本への関心度の高さが窺えます。学校での読み聞かせにも同様のことが言えます。家庭教育学級での読み聞かせの指導は保護者への啓発活動としても良い取り組みと考えます。ぬいぐるみといっしょ

のお話会は、子どもの喜ぶ顔が見えるようです。

(7) 「家庭教育学級の充実」

時代を超えて重要な事業です。経験の中で、時には参加者が思うように集まらない時もありましたが、お互いの体験談を話し合う等「座談会形式」にしたことで充実した時間を過ごしました。

学級生の横のつながりが深まり、数年に渡り続けている学級もあります。

多くの人が参加できるような日時を考えていくことも必要になってくると思われます。

III 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る

1 創造性を育む文化・芸術の推進・継承

(1) 「教育振興基本計画文化芸術編の策定」

計画通りに「教育振興基本計画文化芸術編」を策定したことは良い評価に値します。市民の様々な文化芸術活動の支援、文化財の保護・活用に向けて具体的な実践をして欲しいと思います。「策定」を持続させることが市民の意欲的な活動になっていくと思われます。

(2) 「文化・芸術に触れる機会の拡大」

文化ホール13主催事業を全て実施し、平均売上率が28年度の62%から29年度は目標とする80%を達成したことは担当者皆様の努力の結果です。事業の中には入場できない人が出るほどの事業もあったと聞きます。日本の様々な文化・芸術に触れる機会を市民に与えることが大きな目標であります。引き続き、事業広報の手段や方法について拡充・検討を行っていくことで施策評価「A」が続いていくと思います。

(3) 「市民の自主的な活動の支援」

事業内容や実績からも十分な施策であり、支援も市民のニーズに応え行き届いていたと思われます。

(4) 「子どもをはじめとする次世代の育成」

地域の文化芸術活動に積極的に参加している青少年の姿を見ています。「活動体験の機会を通じて・・・」と言う課題が残されているようですが、正に大事な点と思われます。実際に体験することで、地域の文化に興味を持ち活動する小学生や中学生ができるものと考えます。児童生徒への啓発と学校との連絡・調整を検討しては如何でしょう。

2 文化財の保護・活用

(1) 「文化財の保護」

印西市には多くの文化財があります。開発が進む中で調査・保護していくことは大変なことですが、今後も計画していく必要があります。市職員だけでは難しいこともありますので、市民の協力も必要になってきます。文化財の紹介と保護するために必要なボ

ランティアの募集等を考えてはいかがでしょう。

(2) 「文化財の活用」

活用できる文化財は活用してこそ価値があると思います。印旛歴史民俗資料館にある昔の民具等を実際に使用することで、保護することの大切さを学ぶのではないかと思います。

古墳や古文書、昔の地図等を歴史教育で使用できることや、様々な物を様々な場面で活用できることを紹介することも大切なことと考えます。

3 市史編さん事業の推進

(1) 「市史編さん事業の推進」と(2)「地域資料の保存と活用」はどちらも概ね計画通りに実施されているという評価です。資料収集、調査、講演会、企画展等々、今後も事業の推進を願っています。旧印旛村、旧本埜村の歴史についての講演や展示を希望します。

《スポーツ振興分野》

II 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する

3 市民が参加しやすいスポーツ環境の整備と推進体制の充実

- ・総合型地域スポーツクラブの育成については、新規設立に向けては大変厳しい状況にあるかと思いますので、学識経験者または順大の先生等と共に今後のあり方、支援策または見直しを検討していくべきだと思います。
- ・スポーツ情報システムの充実について、体協ホームページ、スポーツ印西の機関誌は非常に高評を得ております。
今後も体育協会の人材を育成していかなければなりません。
- ・総合体育館は、すごく高評で、大きなイベント等また他の競技と重なると駐車場が少ないので職員の負担もかなりあるかと思います。
- ・他の項目事業は、良い流れのなかで運営されています。